

平成 8 年 度

年 報

屋久島森林環境保全センター

屋久島森林環境保全センターの概要について

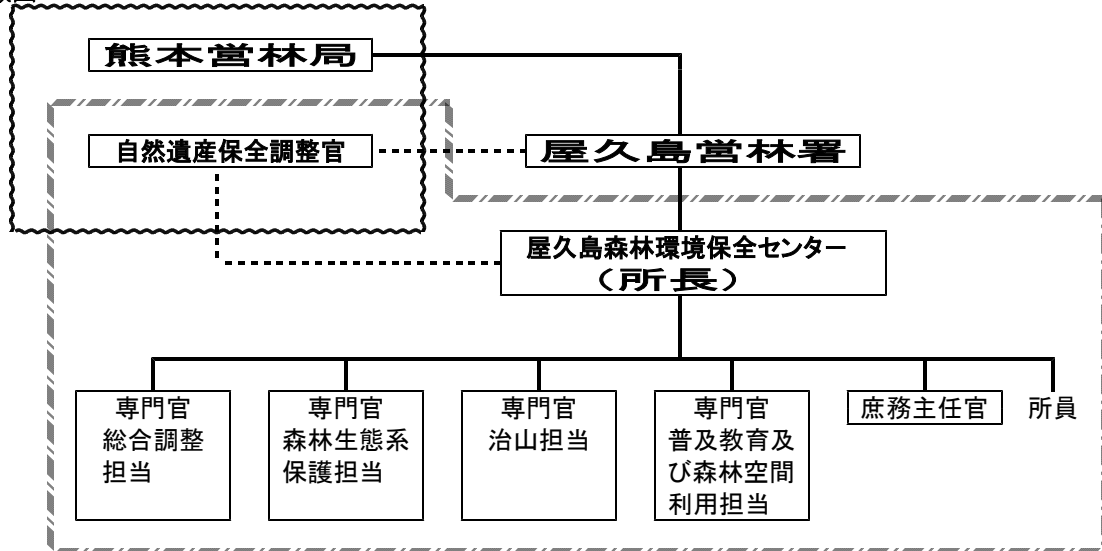
1 設置の目的

屋久島の国有林面積は約38千haで、島の90%を占める総森林面積の約85%を有しており、このうち約10千haが世界自然遺産に登録されるなど極めて貴重な森林が多い。このため、熊本営林局では、従来から国有林の約40%（15千ha）を森林生態系保護地域に指定するなどその保全に努めてきたところであるが、今後更に自然遺産の厳正な保護及びその周辺地域を含めた森林環境の適切な保全・利用に資するため設置したものである。

2 沿革等

明治19年(1886)	5月	鹿児島大林区署宮之浦派出所設置
明治24年(1891)	11月	屋久島小林区署と改称
大正12年(1923)	6月	上屋久小林区署と下屋久小林区署に分割改組、翌年上屋久営林署に改称
平成4年(1992)	3月	屋久島森林生態系保護地域指定
平成5年(1993)	12月	世界遺産条約に自然遺産として登録
平成7年(1995)	3月	下屋久営林署と統合・改組 屋久島森林環境保全センター設置

3 組織図



4 森林環境保全センターの主な業務

(1) 自然遺産保護のための調査等に関する業務

森林総合研究所、林木育種センター、大学等学術研究機関と連携を図りつつ、世界遺産地域を含む森林生態系保護地域等における自然遺産保護のための調査、試験等を行う。

(2) 治山事業に関する業務

国有林における森林の国土保全機能及び保健休養機能の高度発揮のための森林整備及び治山施設整備の実行等を行う。

(3) 森林教育等に関する業務

屋久島の森林生態、森林の役割、自然との共生のあり方等に関して、森林生態系保護地域(保全利用地区)を活用した森林教育・普及啓発活動と屋久島自然休養林等の森林レクリエーション等への適正利用のための施設の整備等を行う。

(4) その他屋久島の森林環境保全に必要な業務

入林者の指導、森林パトロールなどを行う。

I	森林生態系保護	1
1	世界自然遺産保全緊急対策事業	1
(1)	生態系モニタリング調査	1
(2)	民間協力の推進	3
(3)	保全活動拠点施設の設置	4
(4)	植生回復措置	7
(5)	屋久スギ樹勢回復措置	9
2	モニタリングの実施	11
(1)	森林植生のモニタリングプロットの設定	11
(2)	屋久島国有林における水質調査	14
3	ヤクシマシヤクナゲの保護増殖事業	16
4	農林水産省ジーンバンク事業	17
(1)	ヤクタネゴヨウの遺伝資源収集及び増殖・保存	17
(2)	著名ヤクスギの遺伝資源収集	18
II	治山	19
1	平成8年度治山事業一覧表	19
(1)	国有林野内復旧治山	19
(2)	屋久島地区重要自然維持地域保安林整備事業	19
(3)	保安林整備事業	19
(4)	災害復旧等事業	19
2	屋久島における雨量観測	20
III	普及教育・森林空間利用	22
1	森林教室の実施	22
2	森林空間利用（森林環境整備推進協力金）	24
(1)	ヤクスギランド森林環境整備推進協力金の実施	24
(2)	白谷雲水峡森林環境整備推進協力金の実施	25
3	レクリエーションの森等施設点検実施状況	26
4	保全センター作成ガイドブック等の紹介	26
5	広報活動	27
(1)	保全センター所報「洋上アルプス」の作成	27
(2)	保全センター7年度年報の作成	27
(3)	セルフガイドブック「屋久島の森林」の販売	27
IV	その他の事業	28
1	森林パトロールの実施	28
2	資料室の整備（保全センター保有図書一覧表）	29
(1)	保全センター保有図書一覧表	29
(2)	保全センター保有資料	33
3	保全センター所有データの提供状況	33
4	学術調査等の入林者リスト	33
5	報告書リスト	35
V	保全センターに関する主な行事	42
VI	新聞報道（屋久島関連記事）	43
VII	屋久島森林環境保全センター職員名簿	46

I 森林生態系保護

1 世界自然遺産保全緊急対策事業

趣旨

近年、地球的規模で環境問題が注目され森林と人間活動との調和が求められている中で、平成5年12月、屋久島及び白神山地が特に原始的な自然が保たれた貴重な地域として、世界の文化遺産及び自然遺産の保護の関する条約（以下「条約」という。）に基づく自然遺産として登録されるなど、我が国においても原始的な森林の保全に対する関心が高くなってきている。

しかしながら、屋久島及び白神山地は、世界遺産に登録されたことを契機に入込み者が急増し、環境汚染など原始的な生態系への影響が危惧されているところである。このような状況に緊急に対処するため、国有林野事業として世界自然遺産の保全のための対策を講じ、条約締結国としての国際的な責務を果たすものである。

事業の内容

- ・生態系モニタリング調査
- ・民間協力の推進
- ・保全活動拠点施設の設置
- ・植生回復措置
- ・屋久スギ樹勢回復措置

(1) 生態系モニタリング調査

ア 目的

屋久島では入り込み者の増加に伴い、歩道外への入り込みによる植生等の衰退、地域外植物の発生土壌変化による植生の変化等が見られるとともに、環境の汚染など原始的な生態系に対する影響が懸念されている。

これらに対する対応策を放置すれば、自然遺産としての屋久島の生態系に復旧不可能な影響を生む結果となることから、遺産地域保全のための森林管理を行うために必要な、調査地域における入り込みの実態調査、入り込み者による生態系への影響調査及び入り込み者の影響を抑制するための対策に関する検討などを行う事を目的に実施することとし、調査については日本林業技術協会に委託し、その結果は「屋久島生態系モニタリング調査報告書」を作成し記載した。

イ 調査地域における入り込みの実態調査

鹿児島大学農学部が担当し、屋久島観光に関する様々な調査結果や既存の統計・調査・登山届けを利用し、また登山利用が多い夏季に荒川登山口、白谷登山口、淀川登山口において7日間、登山者の入り込み状況について調査を行った。

以上のような資料検討、調査活動により得られた入り込み者の利用状況を踏まえて、現状の問題点と入り込みによる影響を最小限に抑える方策について検討した。

ウ 入り込み者による生態系への影響調査

屋久島野生植物研究所が担当し、世界自然遺産登録地域への入り込み者の増加による森林植生等に及ぼす影響を把握するため、①入林者の増加に伴う植生等への影響、②ヤクスギその他の樹木の根の被害等の状況、③今後考えられる植生等への影響、についてモニタリング調査し、その影響を抑制する方策等を検討した。

(ア) モニタリング箇所（入り込み者による影響を最も受けていると思われる箇所）

- ・大株歩道：ウイルソン株周辺、縄文杉周辺
- ・淀川歩道：淀川小屋周辺、小花之江河手前休憩地

(イ) モニタリング区画の設定

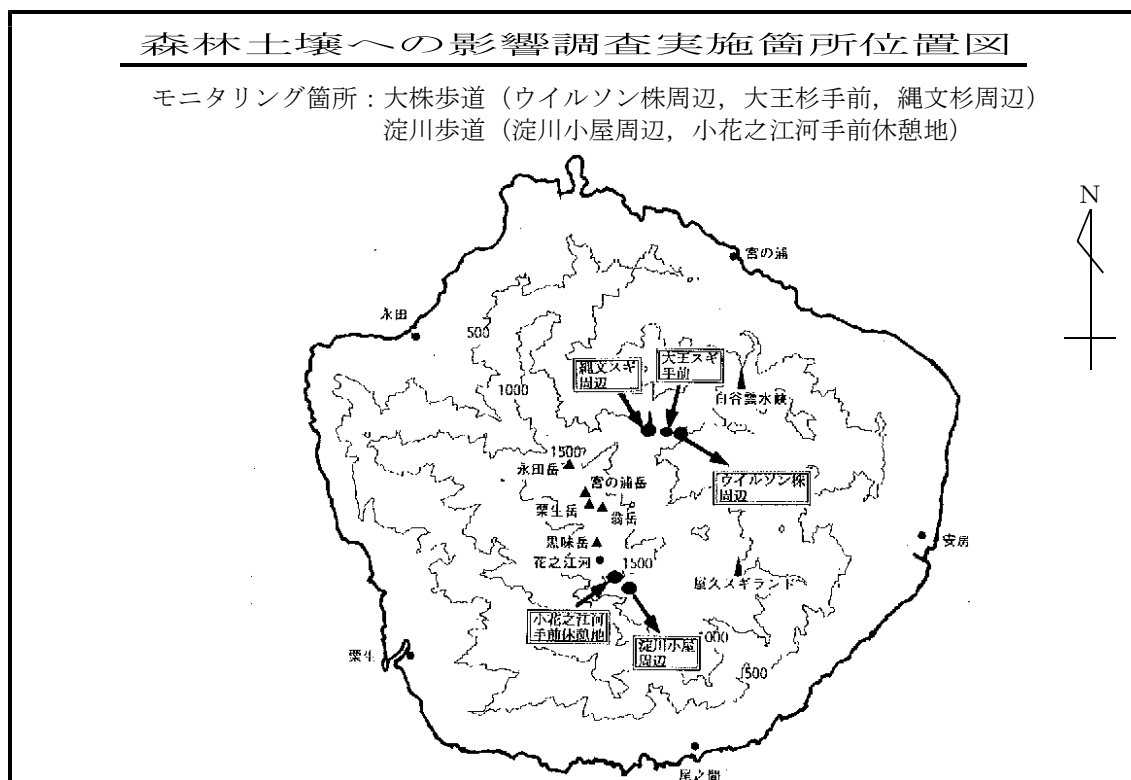
- ・1調査地点に2区画とし、4調査地点で計8区画を設定。
- ・1区画の広さは5m×5m、ただし小花之江河手前休憩地は5m×4m。
- ・区域はプラスチックL型杭にて標示。

エ 森林土壌への影響調査

森林総合研究所九州支所が担当し、踏圧の影響を受けてきた歩道と人為の影響がないと考えられる森林内の自然土壌の実態を把握し、野外調査・室内実験を通して土壌物理生について詳しく調査し、歩道と森林内の自然土壌を比較検討することにより、入り込みの踏圧による影響を解析した。

(ア) モニタリング箇所

- ・大株歩道：ウイルソン株周辺，大王杉手前，縄文杉周辺
- ・淀川歩道：淀川小屋周辺，小花之江河手前休憩地
- ・比較対象地として，対馬の龍良山の原生林に調査プロットを2箇所設置した。



(イ) 調査時期

- ・屋久島：平成8年10月22日～11月1日
- ・対馬：平成8年11月12日～11月16日

(ウ) 調査項目

- ・歩道及び森林内の自然土壌の土壌形態
- ・土壌硬度の測定

オ 水質への影響調査

調査目的は、入り込みが渓流水の水質に与える影響を調べることであるが、今回は渓流水のモニタリングを行い、今後の解析のための初期値を得ることとした。

採水箇所は林外雨4箇所、渓流水8箇所であり、林内雨及び樹幹流の採水はヤクスギランド内の仏陀杉で1996年10月31日に1回行った。

水質調査については、定期的なモニタリングが必要なため採水については保全センターで毎月1回の採水を行うことになっている。

カ その他

最初にも記載したようにこのモニタリングの調査結果と問題点，対策等については報告書を作成して各関係機関等へ配布している。

(配付先)：環境庁霧島屋久国立公園屋久島管理官事務所，上屋久町，屋久町，鹿児島県環境保護課，鹿児島県観光課，(財)屋久島環境文化財団，千葉大学理学部生態学研究室 大沢雅彦，鹿児島県樹木医会会長 古城元夫

(2) 民間協力の推進

ア 目的

関係者による会議の開催等，世界自然遺産地域の保全のための民間協力等の推進に必要な措置を行う。

イ 実施事項

「屋久島・世界遺産等調査研究推進地域連絡協議会」の開催

ウ 実施内容

目 的	自然遺産登録地域を含む屋久島の山岳地域で活動する地元の学識者，地元公共団体（鹿児島県，上屋久・屋久両町）等に参集してもらい，林野庁及び環境庁の自然遺産保全のための試験・研究に関する計画，保全事業実行の理解と協力を得るとともに，地元識者から指導，助言をいただく場とする。			
開催日時	平成9年2月25日（火）15:00～17:10	開催場所	屋久島世界遺産センター内	
主 催	環境庁霧島屋久国立公園屋久島管理官事務所及び屋久島森林環境保全センター			
メンバー	氏 名	所 属	出席	欠席
	森山 四男	屋久島環境文化村センター副館長（館長）		○
	堤 清則	屋久島環境文化研修センター副館長（館長）	○	
	日下田紀三	屋久杉自然館館長	○	
	川口 真澄	上屋久町歴史民俗資料館学芸員	○	
	大山 勇作	屋久島野生植物研究所主宰	○	
	岩川 文寛	屋久島フルーツガーデン	○	
	佐山 浩	屋久島国立公園管理官事務所（事務局）	○	
	山下 孝親	屋久島森林環境保全センター（事務局）	○	
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会議の経緯・趣旨説明 3 メンバー紹介 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境庁の調査研究の状況 (2) 林野庁の調査研究の状況 (3) その他機関等の調査研究の状況 (4) 意見交換 (5) その他（今後の方向等） 5 閉会 			
主な意見等	<p>《環境庁》 現在，屋久島でのフィールドを利用した調査・研究についての整理と，今後の調査研究・モニタリング等実施の情報連絡の場として，この会議を実施していくことや今までの調査・研究を今後どのように活用していくか，この会議の中で協議していきたい。</p> <p>《保全センター》 資料に基づき，保全活動状況及び今後の計画を説明する。 この会議を情報連絡の場として有効に活用していきたい。</p> <p>《屋久杉自然館》 今後の取り組み（「スギ利用についての追求」「スギ科植物の展示園の実現」「ヤクスギを軸とした森林の仕組みについての調査」）について説明がある。 その他，保全センターへの要望としてヤクスギランド内でのモニタリングプロットの設定や，自然館は博物館でもあるという位置付けから営林署の古い資料などの利用（パソコンでの検索システム）をしていく予定。</p>			

(3) 保全活動拠点施設の設置

ア 目的

入込み者の啓発，必要な保全措置の把握のための巡回指導及び情報連絡，民間団体・ボランティアの活動の推進，保全措置のための機材の保管等に必要な施設の設置を行う。

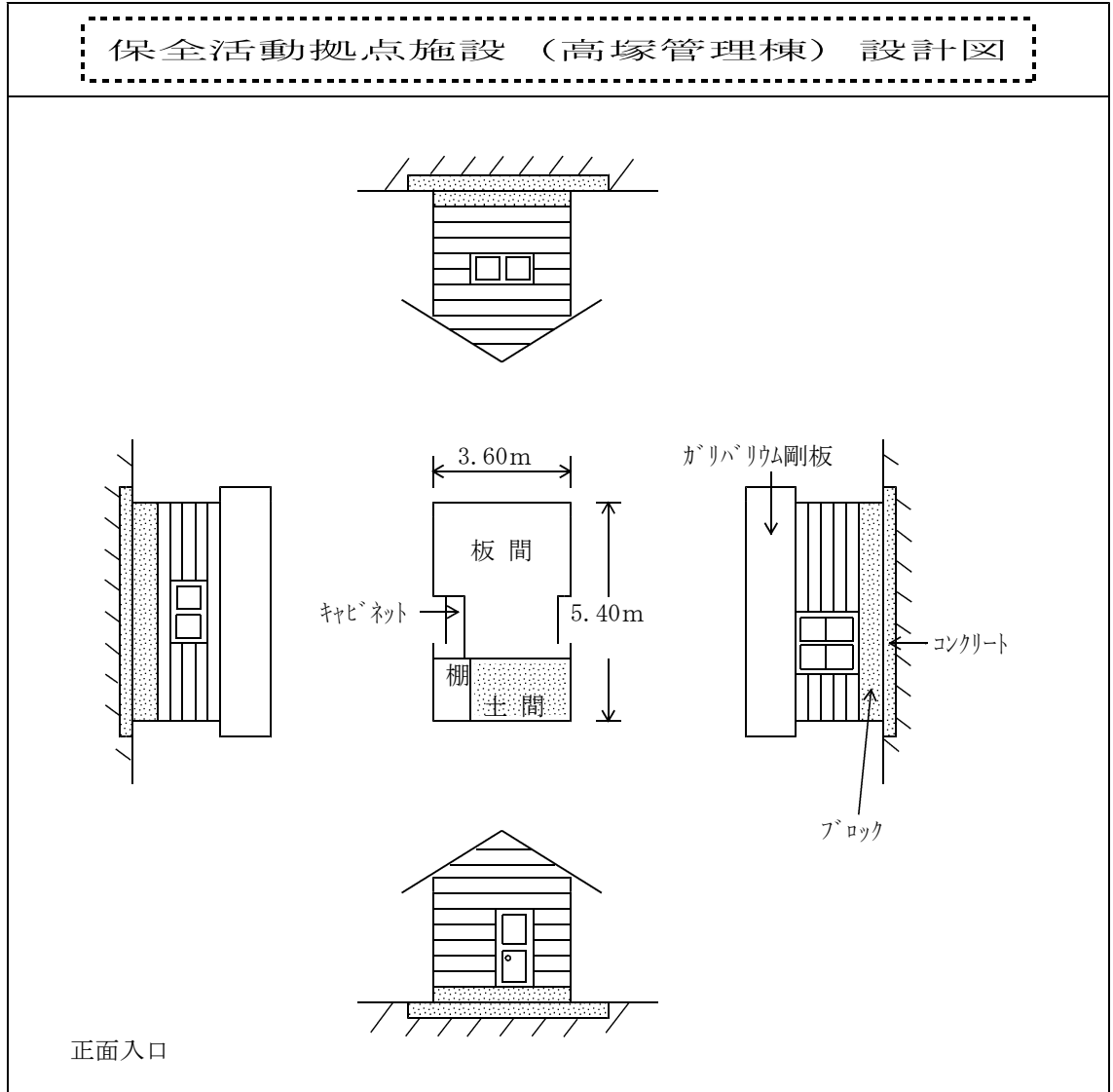
イ 実施事項

「高塚管理棟の設置」

ウ 実施内容

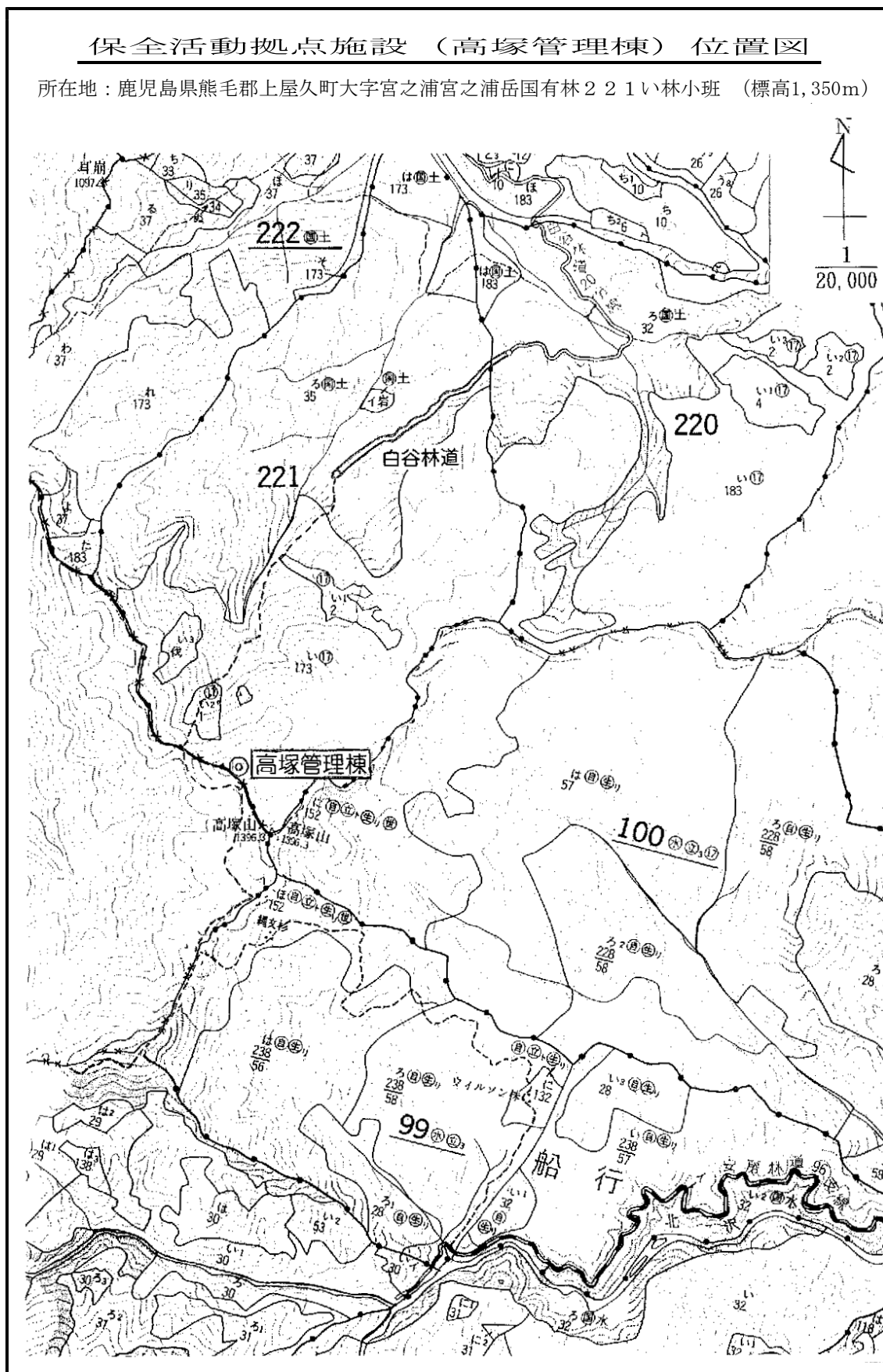
工 事 名	活動拠点施設工
工 事 場 所	鹿児島県熊毛郡上屋久町大字宮之浦宮之浦岳国有林221い林小班 (標高1,350m)
規 模	木造平屋 20平方メートル (床張りと土間)
工 期	平成8年11月13日～平成9年3月21日
完成年月日	平成9年 2月13日
設 計 図	下図-1のとおり
位 置 図	別紙1 //
運 営 方 針	別紙2 //

図-1



保全活動拠点施設（高塚管理棟）位置図

所在地：鹿児島県熊毛郡上屋久町大字宮之浦宮之浦岳国有林221い林小班（標高1,350m）



高塚管理棟の運営方針

1 運営方針の決定及び変更

- (1) 熊本営林局の指導の下に、屋久島営林署長（実質的な処理機関は屋久島森林環境保全センター（以下「保全センター」という。））が決定するものとする。
- (2) 決定及び変更に当たっては、事前に環境庁霧島屋久国立公園屋久島管理官事務所（以下「屋久島管理官事務所」という。）、高塚管理棟（以下「管理棟」という。）の運営に係る地元のボランティア団体等の意見を聞き、運営方針に反映させるものとする。
- (3) 決定及び変更された運営方針は、関係する機関等に通知すると共に、屋久島山岳部利用対策協議会や「洋上アルプス(保全センター広報)」を利用して地元によく周知するものとする。

2 運営方針

(1) 管理棟の利用業務等

- ア 自然遺産地域を中心とした山岳部の巡視・指導活動
- イ 山岳遭難救助活動
- ウ 屋久島営林署（保全センターを含む）の行う業務
- エ 以下の活動及び屋久島営林署長が適当と認めた自然遺産等の保全に関する活動
 - ① 環境庁及び鹿児島県の実施する自然公園施設の整備に関する業務
 - ② 自然遺産の保全に寄与する学術研究活動
- オ 上記ア～エに必要な機材の保管

(2) 利用対象者

- (1) のアからエに従事する者（国・県・町等の職員，ボランティア，屋久島警察署，学術研究者，保全センターの業務の請負実行者等）

(3) 利用の承認

- ア 宿泊を伴わない利用
保全センターに事前に文書（申請書様式）で申請する。ただし管理棟の鍵を常時保管する屋久島管理官事務所及び屋久島警察署については、電話連絡で可とする。
- イ 宿泊を伴う利用
保全センターに事前に文書（申請書様式）で申請する。ただし遭難救助等緊急の場合は、電話連絡か事後承認も可とする。
なお、宿泊を伴う利用の承認については、申請された利用業務を遂行するために真に必要なもののみとする。

(4) 管理棟入口ドアの鍵の保管と貸出

- 鍵の保管場所は、保全センター，屋久島営林署，屋久島管理官事務所及び屋久島警察署とし、貸出は利用申請者の希望する保管場所（屋久島警察署を除く）で行うものとする。

(5) 使用記録簿の記入の義務付け

- 管理棟内に使用記録簿を備え付け、使用の記録を義務付ける。

(6) 機材の保管等

- ア (2)の利用対象者（機関）の希望する管理棟内での機材の保管は、棟の利用空間及び棟の管理上の問題の有無等を考慮した上で、原則として許可するものとする。
- イ 屋久島営林署で備え付けた備品及び消耗品については、原則として管理棟の利用者が利用できるものとし、管理棟入口ドアの鍵と一体的に備品ロッカーの鍵を貸し出すものとする。屋久島営林署で備え付けた備品等については、目録を管理棟内に明示するものとする。

(7) 運営方針の適用

- この運営方針は、平成9年4月25日から適用する。

(4) 植生回復措置

ア 目的

入込み者の踏み荒らし等により植生が破壊された箇所等における植生の復元・維持に必要な、土砂流出防止の施設の設置、入込み者の踏み荒らし及び盗掘等の防止のための施設（保護棚、ロープ等の設置）の設置、その他世界自然遺産の保全に必要な施設の設置を行う。

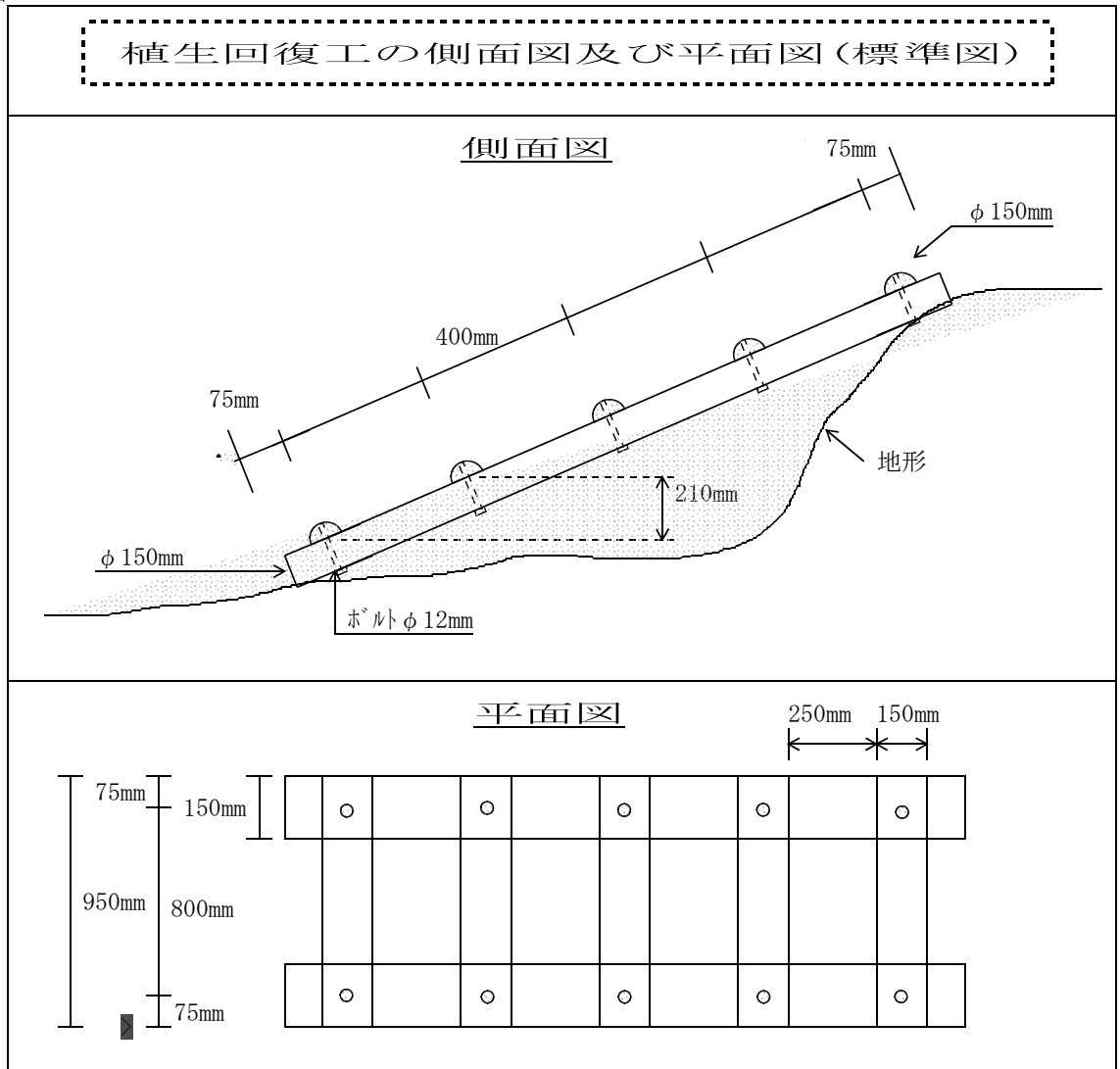
イ 実施事項

「登山歩道（縄文スギ～高塚小屋）の木製階段設置」

ウ 実施内容

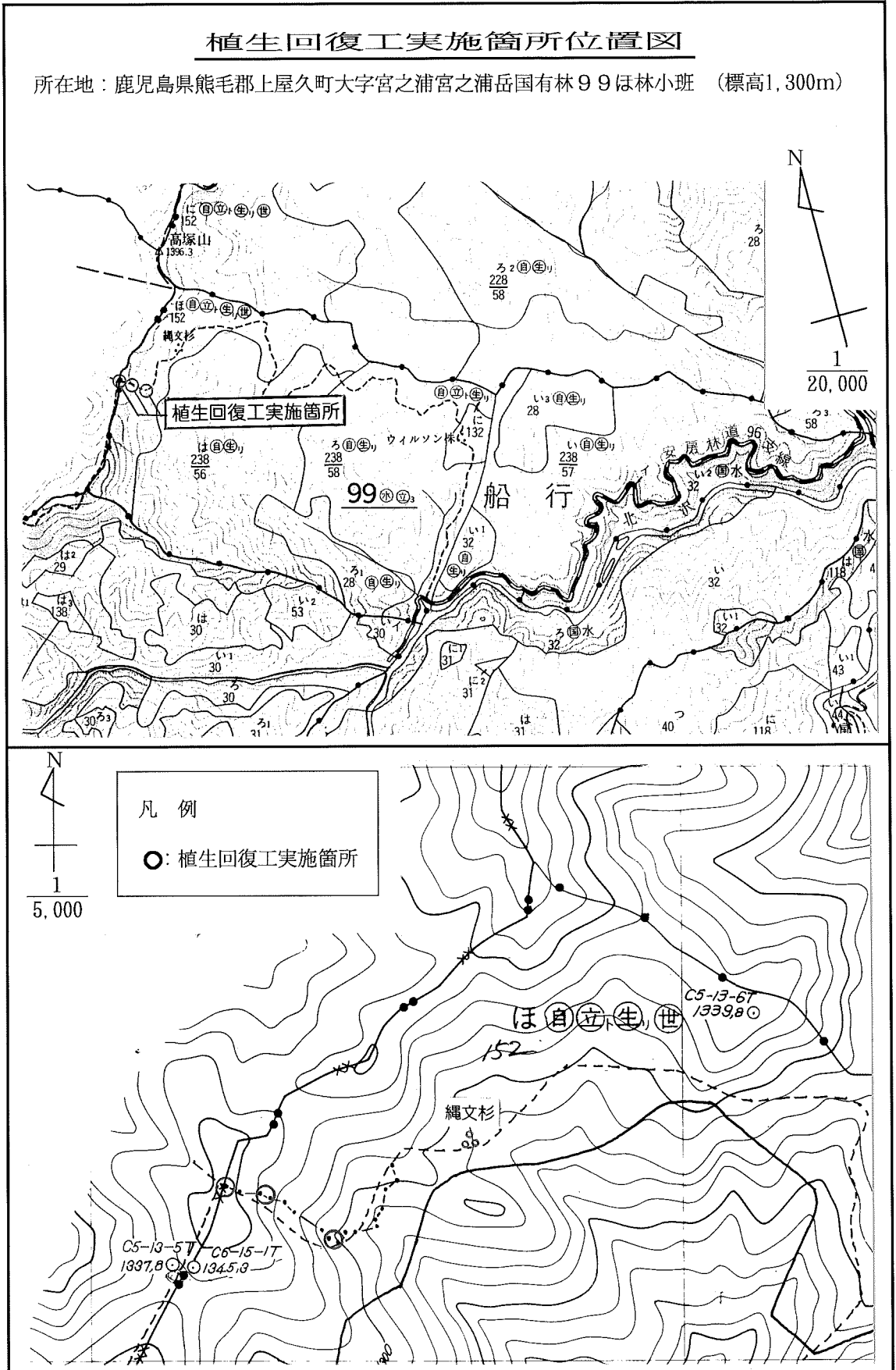
工 事 名	植生回復工
工 事 場 所	鹿児島県熊毛郡上屋久町大字宮之浦宮之浦岳国有林99ほ林小班（標高1,300m）
構 造 物	階段工 4基（木製） 長さ2m～5m, 巾1m
工 期	平成8年11月13日～平成9年3月21日
完成年月日	平成9年 2月13日
設 計 図	下図-1のとおり
位 置 図	別紙1 //

図-1



植生回復工実施箇所位置図

所在地：鹿児島県熊毛郡上屋久町大字宮之浦宮之浦岳国有林99ほ林小班（標高1,300m）



(5) 屋久スギ樹勢回復措置

ア 目的

屋久島は、縄文杉等屋久スギの巨木群を代表とする特殊な生態系が素晴らしい景観を呈していること等により、世界自然遺産に登録されたものであるが、それらの巨木群の中には、葉の勢いの衰えなど入り込み者の踏み込み等による影響が発現し、そのまま放置すれば樹勢回復の措置が困難となる可能性も多いことから、樹木医等専門家による樹勢の判定を行うとともに樹勢回復措置を実施し、併せて今後のモニタリングの方法、樹勢維持のための保護方法につき検討を行い、屋久島自然遺産の象徴である屋久スギの適切な保護を図ることを目的とする。

イ 樹勢回復調査（樹木医による樹勢診断）

(ア) 調査時期

- ・第1回調査 1995年6月29日
- ・第2回調査 1996年9月18日
- ・第3回調査 1996年11月14・15日

(イ) 調査木

- ・大株歩道・・・・・・・・大王杉・翁杉
- ・ヤクスギランド・・・・紀元杉・仏陀杉・蛇紋杉
- ・白谷雲水峡・・・・弥生杉

(ウ) 調査方法

スギ本体について健全な葉・枝・幹等の外観的観察の外、枯枝の状況、幹腐朽、病虫害、根張り、細根の発達等を調査し、土壌については山中式硬度計を使用し周辺土壌の表面硬度を測定したほか、当該木周辺の土壌断面調査を行い土壌硬度を測定、また同箇所土壌を採取しPHを測定した。

このほか、着生植物の状況、生立環境を調査した。

(エ) 調査報告書の作成

調査結果及び考察と樹勢回復措置等の詳しい内容については、報告書「ヤクスギ樹勢回復に関する調査報告」を作成し各関係機関へ配布した。

(配布先)：環境庁霧島屋久国立公園屋久島管理官事務所、上屋久町、屋久町、鹿児島県環境保護課、鹿児島県観光課、(財)屋久島環境文化財団、千葉大学理学部生態学研究室 大沢雅彦、鹿児島県樹木医会会長 古城元夫

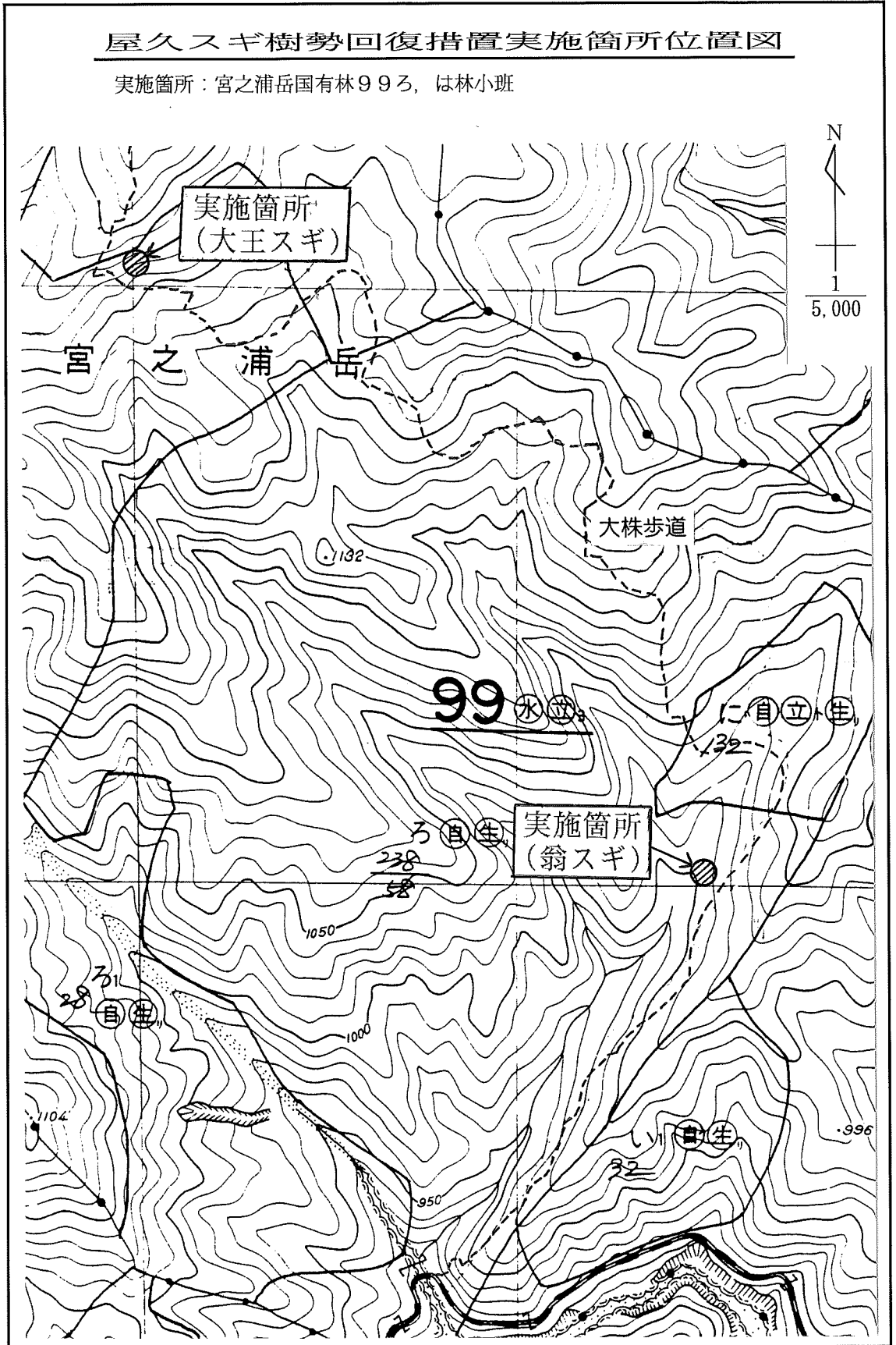
ウ 樹勢回復措置工

調査報告書の結果をふまえて今年度は、大王杉と翁杉について樹勢回復措置工を実施した。その内容については必要最小限の処理、整備とする。

- ・工事名：樹勢回復措置工工事（大王杉、翁杉）
- ・工事場所：宮之浦岳国有林99ろ、は林小班
- ・工種：編柵工総延長 44.5m, 土壌改良工総面積 55.0m²
- ・工期：平成8年12月3日～平成9年2月25日
- ・完成：平成9年2月7日
- ・工事内訳
 - 大王杉：編柵工延長 38.5m, 土壌改良工面積 45m²
 - 翁杉：編柵工延長 6.0m, 土壌改良工面積 10m²

屋久スギ樹勢回復措置実施箇所位置図

実施箇所：宮之浦岳国有林99㍻，は林小班



2 モニタリングの実施

(1) 森林植生のモニタリングプロットの設定

目的及び趣旨

屋久島森林環境保全センターでは、屋久島の代表的な植生帯や林相の移り変わり（遷移）を長期的に観察することで、屋久島の貴重な森林環境の保全に資することを目的に、森林植生モニタリングプロットを平成7年度から設定してきた。

平成7年度には、大プロット1カ所、小プロット1カ所を設定し（平成7年度年報に掲載）今年度は屋久島東部の照葉樹林帯として愛子岳の麓に小プロット1カ所を設定した。

また、調査の具体的手法（平成7年度年報に掲載）は森林総合研究所九州支所暖帯林研究室の指導を受けながら実施し、調査におけるデータ及びフィールドは大学や研究機関等へ提供している。

◆モニタリングプロット設定状況及び設定計画

1 大プロット

No.	プロット名	設定箇所（林小班等）	設定面積	設定(予定)年	設定方法	調査内容等
1	暖帯性下位 （照葉樹林帯）	2い（西部林道沿い） 標高170m～270m	4.00ha	1995（H7） 1996年6月 1回目調査終了	・200m×200m ・10mメッシュ 交点に杭打ち	・樹種 ・胸高周囲長 ・立木位置図 ・5年毎の調査 ・定点撮影
2	移行帯及び 暖帯性上位 （スギ天然林帯）	214い1（白谷雲水峡内） 標高 約900m 80い1（ヤクスギランド） 標高 1,100m 86い1（ヤクスギランド） 標高 1,150m 86い2（ヤクスギランド） 標高 1,100m 17い1（花山歩道） 標高 1,250m	(1.00) 0.80ha 1.00ha 1.00ha 1.00ha	1974（s49） 1973（s48） " " " " " "	・100m×100m ・20m×20mのブロック25個 ・白谷の5ブロックは再測の際、林分状態をなしていないので除外	・樹種 ・胸高直径 ・樹高 ・10年毎の調査 ・再測（2回目） 1998～1993に鹿児島大学（吉田茂二郎先生外）で実施
3	温帯			1998（H10）		

2 小プロット

No.	プロット名	設定箇所（林小班等）	設定面積	設定(予定)年	設定方法	調査内容等
1	海岸低地林	111り（田代ヶ浜） 標高 10m～20m	0.25ha	1995（H7）	・50m×50m ・10mメッシュ 交点に杭打ち	・樹種 ・胸高周囲長 ・立木位置図 ・5年毎の調査 ・定点撮影
2	照葉樹林帯	204う（愛子岳山麓） 標高 150m～180m	0.70ha	1997（H9）	・10mメッシュ 交点に杭打ち	同上
3	高層湿原	22ハ外（花之江河） 標高 1,600m 82ろ（小花之江河） 標高 1,600m	バルトランセ 外	1997（H9）	・バルトランセ ・湿原全体植生 図	・全体植生図 ・植物種 ・植生投影図 ・5年毎の調査 ・定点撮影
4	天然コスギ 群生地	99こ（ウヰツ株周辺） 標高 1,040m	0.25ha	1998（H10）	・50m×50m ・10mメッシュ 交点に杭打ち	・樹種 ・胸高直径 ・立木位置図 ・樹高 ・5年毎の調査 ・定点撮影

No.	プロット名	設定箇所 (林小班等)	設定面積	設定(予定)年	設定方法	調査内容等
5	ヒメシャラ 群生地	228い(高塚山周辺) 標高 1,300m	0.50ha (0.25×2 箇所)	1998 (H10)	・50m×50m ・10mメッシュ 交点に杭打ち	・樹種 ・胸高周囲長 ・樹高 ・立木位置図 ・5年毎の調査 ・定点撮影
6	ヤクタネゴ ヨウ群生地	4い (西部林道沿い) 標高 500m前後	ベルトランセ ト(10×2 50m)	1999 (H11)	・ベルトランセト	・同上及び稚樹調 査
7	山頂低木林	93へ (投石岳付近) 標高 1,780m	0.25ha	1999 (H11)	・50m×50m ・10mメッシュ 交点に杭打ち	・同上及び樹幹投 影図

◆愛子岳国有林204う林小班モニタリングプロット

1 林内概要

当プロットは、屋久島東部の照葉樹林帯として、愛子岳の麓小瀬田林道沿いの愛子岳国有林204う林小班に所在する。

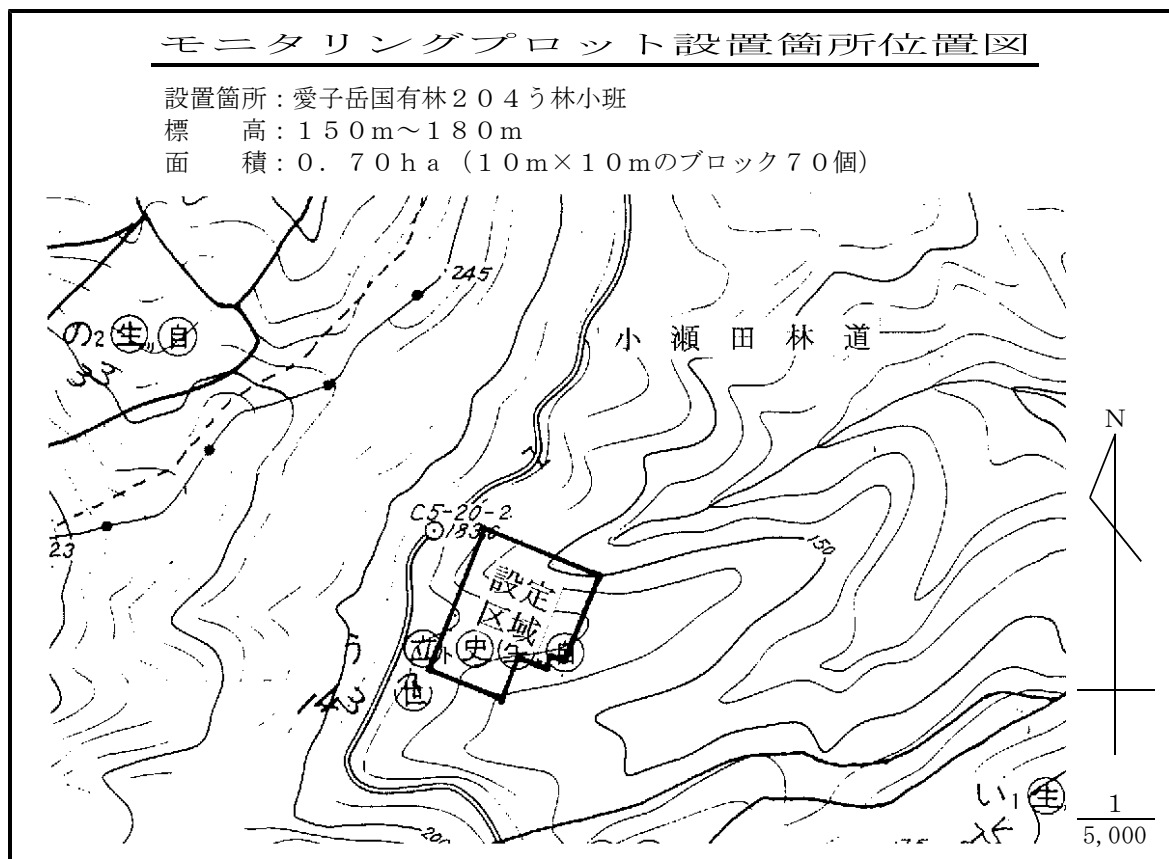
林齢144年生の照葉樹林帯で、標高150m～180mに位置し、面積は0.70haを設定した。

またこのプロットは、平成7年度に設定した屋久島西部の照葉樹林帯大プロットの比較対象地としての位置づけもある。

2 地域指定等

- (1) 森林生態系保護地域, (2) 世界自然遺産登録地域, (3) 国立公園特別保護地区, (4) 特別天然記念物
(5) 水源かん養保安林

3 設定箇所位置図



4 調査結果と樹種構成

当プロット内の樹種は39種、立木密度は1175本/0.70ha (ha当1679本)、平均胸高周囲長57.5cm (胸高直径18cm)となっている。

立木本数はモクダチバナが一番多く210本、次にイスノキの168本、以下サクラツツジ167本、サカキ83本、タイミンタチバナ65本となっており、本数別の構成は西部地域の大プロットとほぼ同じになっている。

また、このプロットには低地ではあまり見られないヒメシャラの大木(12本、平均胸高周囲長102.5cm)が出現してきている。

当プロットの樹種別集計表は下表のようになっている。

樹種別集計表

番号	樹種名	本数	平均周囲長 (cm)	備考
1	モクダチバナ	210	42.9	
2	イスノキ	168	56.1	
3	サクラツツジ	167	36.4	
4	サカキ	83	42.8	
5	タイミンタチバナ	65	31.1	
6	リンゴツバキ	55	35.6	
7	バリバリノキ	54	59.3	
8	サザンカ	53	37.3	
9	ヤマビワ	37	51.3	
10	ウラジログシ	25	105.9	
11	トキワガキ	22	63.9	
12	イヌガシ	22	43.6	
13	モッコク	21	87.1	
14	ヒサカキ	21	24.1	
15	クロバイ	17	37.3	
16	フカノキ	16	74.1	
17	ヤブニッケイ	16	51.0	
18	スダジイ	15	119.7	
19	ヒメユズリハ	13	77.2	
20	ヒメシャラ	12	102.5	
21	ミミズバイ	11	39.3	
22	マテバシイ	8	58.0	
23	シロダモ	8	46.8	
24	リュウキュウモチ	7	121.3	
25	タブノキ	7	91.3	
26	アデク	7	60.3	
27	ツゲモチ	6	74.1	
28	ホソバタブ	5	62.1	
29	コバンモチ	4	62.6	
30	カラスザンショウ	3	96.7	
31	シキミ	3	36.8	
32	ナギ	3	31.5	
33	クロガネモチ	3	31.1	
34	カクレミノ	3	22.7	
35	イヌビワ	1	102.5	
36	エゴノキ	1	53.0	
37	シロミミズ	1	26.8	
38	ショウベンノキ	1	23.8	
39	クチナシ	1	23.5	
	合計	1175	57.5	

(2) 屋久島国有林における水質調査

ア 目的

森林総合研究所九州支所と共同で、屋久島の森林の生態に深く関係する水質について調査を行い、土壌地質との関わり等についての基礎資料とすることを目的に平成7年度より実施し、今年度からは世界自然遺産保全緊急対策事業の一つとして実行しており、「屋久島生態系モニタリング調査報告書」に水質への影響調査ということで報告している。

また、今年度からは採水箇所を9箇所から12箇所に増やして実行した。

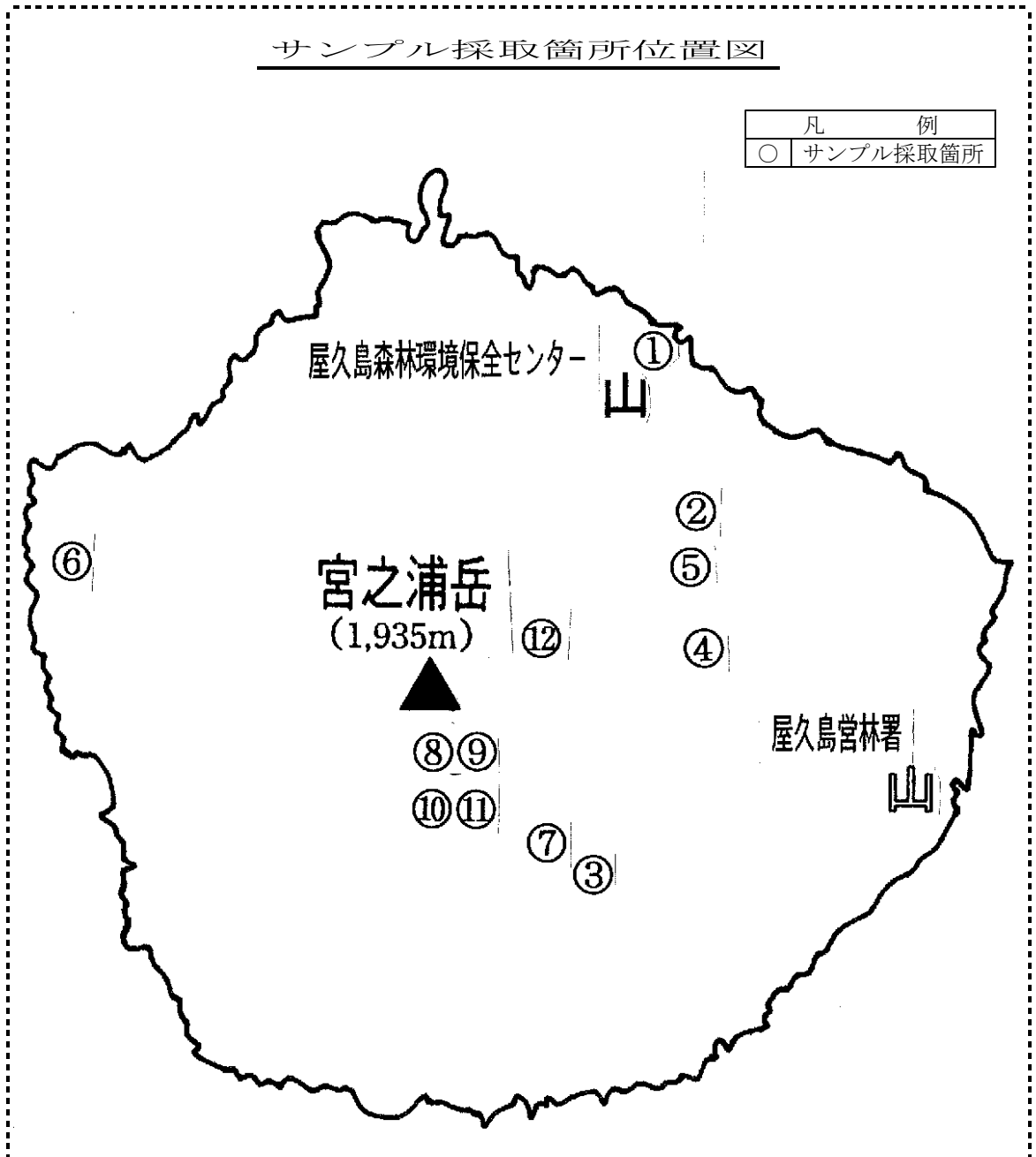
イ サンプル採取箇所

番号	採水箇所 (林小班)	項目	標高	備考
1	保全センター林友寮 (敷地内)	林外雨	20m	海岸低地 H8, 10, 28設置
2	白谷雨量計設置箇所 (216ぬ5)	林外雨	560m	雨量計設置箇所 H8, 12, 4設置
3	淀川雨量計設置箇所 (62は)	林外雨	1350m	雨量計設置箇所 H8, 10, 31設置
4	小杉谷事業所跡 (101イ)	林外雨	660m	雨量計設置箇所 H8, 10, 30設置
5	白谷雲水峡入口 (215い)	渓流水	700m	森林生態系保護地域・屋久島自然休養林 水源の森
6	半山大プロット内 (2い)	渓流水	170m	森林生態系保護地域・世界自然遺産登録 地域・国立公園特別保護地区
7	淀川小屋水飲み場 (82い)	渓流水	1370m	森林生態系保護地域・世界自然遺産登録 地域 国立公園特別保護地区
8	花之江河水流入箇所 (22ろ)	渓流水	1630m	高層湿原・森林生態系保護地域・世界自然 遺産登録地域・国立公園特別保護地区
9	花之江河水流出箇所 (22ろ)	渓流水	1630m	高層湿原・森林生態系保護地域・世界自然 遺産登録地域・国立公園特別保護地区
10	小花之江河水流入箇所 (82ろ)	渓流水	1630m	高層湿原・森林生態系保護地域・世界自然 遺産登録地域・国立公園特別保護地区
11	小花之江河水流出箇所 (82ろ)	渓流水	1630m	高層湿原・森林生態系保護地域・世界自然 遺産登録地域・国立公園特別保護地区
12	縄文杉水飲み場 (99ほ)	渓流水	1310m	森林生態系保護地域・世界自然遺産登録 地域・国立公園特別保護地区

エ 採水方法及び管理

- ① 採水は原則として月に1度、縄文杉については登山の時採水する。
- ② 採水及び管理は屋久島森林環境保全センターで行う。
- ③ 採水容器は森林総合研究所で用意されたものを使用する。
- ④ 採水後は発送まで冷蔵庫で保管し、発送は低温状態を保つこと。
- ⑤ 水質の分析は森林総合研究所九州支所土壌研究室で行う。

オ 採水箇所位置図



3 ヤクシマシヤクナゲの保護増殖事業

(1) 目的

この事業は、屋久島森林環境保全センターとアムウェイネイチャーセンターの助成を受けた屋久島環境文化財団が共同事業として平成7年度より実施しているもので、屋久島国有林においてヤクシマシヤクナゲの保護増殖事業を実施し、盗掘箇所等への植栽を行い森林生態系の修復と自然休養林等保健休養機能の維持増進を図ることを目的としている。

(2) 事業実施箇所等

事業実施箇所、播種の方法等については平成7年度の年報に掲載している。

(3) 発芽状況

平成9年3月26日に調査した発芽本数は次のようになっている。

箱番号	播種床種類	発芽本数	箱番号	播種床種類	発芽本数
1	山砂+水苔	27	S-17	山砂	70
2	〃	11	S-18	山砂	78
3	川砂+水苔	47	S-19	山砂(水苔覆わず)	22
4	山砂+水苔	30	S-20	山砂(水苔覆わず)	9
5	川砂+水苔	73	小計		673
6	川砂+鹿沼土+水苔	32			
7	川砂+水苔	0	M-1	水苔+細かい砂	97
8	川砂+水苔	0	M-2	水苔+細かい砂	10
9	水苔のみ	98	M-4	水苔+細かい砂	103
10	水苔+砂	0	M-5	水苔+細かい砂	141
小計		318	M-6	水苔+細かい砂	39
			M-7	水苔+細かい砂	48
S-1	細かい山砂	25	M-8	水苔のみ	0
S-2	細かい山砂	7	M-9	水苔のみ	88
S-3	細かい山砂	20	M-10	水苔のみ	11
S-4	細かい山砂	34	M-11	水苔のみ	41
S-5	細かい山砂	2	M-12	水苔のみ	138
S-6	細かい山砂	6	M-13	水苔のみ	61
S-7	山砂	42	M-14	水苔のみ	140
S-8	山砂	56	M-15	水苔のみ	107
S-9	山砂	40	M-16	水苔のみ	60
S-10	山砂	33	M-17	水苔のみ	81
S-11	山砂	56	M-18	水苔のみ	170
S-12	山砂	87	M-19	水苔のみ	127
S-13	山砂	0	M-20	水苔のみ	173
S-14	山砂	11	小計		1635
S-15	山砂	42			
S-16	山砂	33	合計		2626

※鹿沼土の播種床は大雨等による種子、発芽苗の流亡により調査時点での本数はカウントできなかった。

(4) 播種から1年間の観察経過と問題点

4月の下旬から7月の下旬までの3カ月間発芽が確認されているが、5月末までは良好な発芽は認められなかった。6月に入って発芽促進剤(メネデル)を散布、以後の発芽が良好になっている。また、播種床別の発芽状況では、6月中旬まで鹿沼土の播種床が発芽良好で、山砂は遅く、水苔はほとんど発芽が無かった。7月に入ると水苔の播種床は発芽が良好になってきている。

しかし、好天の続く4月下旬から6月中旬は二日に一度の灌水でも乾燥気味になり、発芽苗の枯死も出ている。それに加えて、鹿沼土と山砂の播種床は大雨により発芽苗が浮いて流される被害が発生し、鹿沼土の播種床は一年後の生存率がゼロ近くになってしまった。

これらの問題点を解決するために、平成9年度には播種床に屋根を取り付ける、設置箇所を変更する等の対策をたて実行する予定となっている。

4 農林水産省ジーンバンク事業

目的

本事業は、1985年から始まったもので、農林水産生物全般を対象として遺伝資源の増殖、保存等を行うとともに、遺伝資源及びその情報を大学、民間等へ提供するもので、屋久島森林環境保全センターでは著名ヤクスギ、ヤクタネゴヨウの遺伝資源保存・増殖について林木育種センター九州育種場と共同で実施している。

(1) ヤクタネゴヨウの遺伝資源収集及び増殖・保存

ア 目的

この事業は、農林水産省ジーンバンク事業により希少樹種であるヤクタネゴヨウの遺伝資源保存を目的として平成6年度から実施されてきたもので、今年度も国有林内の2箇所で種子と穂木の採取を行っている。

採取した種子と穂木は林木育種センター九州育種場において、播種と接ぎ木による増殖を行っており、最終的には現地林分への播種、植栽と現地外に遺伝資源保存林を設定し、ヤクタネゴヨウの種としての保存を行っていく。

イ 種子と穂木の採取方法

種子は、種子成熟期に球果を高枝ばさみ、小鎌により採取する。

穂木は、接ぎ木用穂木として枝先約30cmを5本程度高枝ばさみ、小鎌にて採取する。

ウ 実施期間

採穂実施期間 平成7年1月20日～平成9年3月30日

採種実施期間 平成7年8月1日～平成9年9月20日

エ 平成8年度実施結果

- ・採穂（採取実行時期 平成9年2月18日～21日）

収 集 箇 所	個 体 数	採穂量
破砂岳国有林 48林班	43個体×5本	215本
ハサ岳国有林 66林班	2個体×5本	10本
合 計	45個体	225本

- ・採種（採取実行時期 平成8年9月10日～11日）

収 集 箇 所	個 体 数	採 種 量
破砂岳国有林 48林班	13個体	129球果

※採穂、採種ともに林木育種センター九州育種場の職員が来島し実行した。

(2) 著名ヤクスギの遺伝資源収集

ア 目的

この事業は、農林水産省ジーンバンク事業に基づきヤクスギ著名木の遺伝資源保存を目的に、熊本営林局と林木育種センター九州育種場の共同事業として、平成7年度より穂木の採取を行ってきたもので、今年度は平成7年度の残りについて実施した。

採取した穂木は、林木育種センター九州育種場において挿し木と接ぎ木による増殖を行い、国有林内に遺伝子保存林と展示林を設定し保存していくとともに、民有林（地元町）での現地外保存も検討しており、苗木の供給可能量に合わせて順次設定・植栽していく。

イ 採取方法及び採取量

各個体とも接ぎ木、挿し木用として枝先約30cm程度を各10本づつ、高枝剪定鋏又は小鎌で切り取り採取する。

ただし、各個体の健全度等を考慮し採取数量を減ずる等の措置を行うこととする。

ウ 実施期間

平成8年1月16日～平成9年3月31日

エ 平成8年度採穂

名 称	林 班 及 び 所 在 場 所	採 穂 量	採 穂 年 月 日
愛 子 杉	89林班, 森林軌道沿い	10本	H9. 3. 11
七 本 杉	214林班, 白谷雲水峡内	10本	H9. 3. 12
奉 行 杉	215林班, 白谷雲水峡内	10本	H9. 3. 12
弥 生 杉	215林班, 白谷雲水峡内	10本	H9. 3. 12
紀 元 杉	81林班, ヤクスギランド内	10本	H9. 3. 13
モッチョム太郎	57林班, モッチョム岳登山道	10本	H9. 3. 13
万 代 杉	57林班, モッチョム岳登山道	10本	H9. 3. 13
合 計		70本	

※ 事業の実施については、林木育種センター九州育種場から2名来島し、保全センター職員2名と計4名で実施した。

オ 穂木採取個体及び採穂量一覧表

名 称	穂木採取年月日	採取量	名 称	穂木採取年月日	採取量
縄文杉	H8. 3. 12	10本	愛子杉	H9. 3. 11	10本
夫婦杉 (夫)	〃	10	七本杉	H9. 3. 12	10
夫婦杉 (妻)	〃	10	奉行杉	〃	10
大王杉	〃	10	弥生杉	〃	10
翁杉	〃	10	紀元杉	H9. 3. 13	10
太古杉	〃	10	モッチョム太郎	〃	10
川上杉	H8. 3. 13	10	万代杉	〃	10
仏陀杉	〃	10	合 計		150本

カ その他

当初、①仁王杉、②三代杉、③蛇紋杉、④天柱杉、⑤岩戸杉、⑥大和杉の著名ヤクスギ6本についても採穂予定表に記載していたが、枝下が高く採穂出来なかった。

また、平成7年度に採穂した8個体の増殖状況は、つぎ木とさし木で増殖を行い、その発根、活着状況は良好との林木育種センター九州育種場からの連絡を受けている。

Ⅱ 治 山

1 平成8年度治山事業一覧表

(1) 国有林野内復旧治山工事

NO	工 事 名	国 有 林 林 小 班	種 別	主 工 種	数 量	工 期	完 成 年 月 日	備 考
1	太忠岳治山工事	ハ岳, 太忠岳 69り, 70ね	復 旧 治 山	コンクリート 谷止工	m3 447.8	8. 5. 30~ 8. 11. 19	8. 11. 7	
2	宮之浦岳治山工事(217)	宮之浦岳 217や	〃	〃	517.8	8. 5. 30~ 8. 11. 19	8. 10. 1	
3	宮之浦岳治山工事(220)	宮之浦岳 220ろ	〃	〃	528.1	8. 5. 7~ 8. 10. 25	8. 9. 12	
4	白川治山工事	白 川 249ぬ ₁	〃	〃	431.9	8. 5. 7~ 8. 10. 25	8. 10. 1	
	計							

(2) 屋久島地区重要自然維持地域保安林整備事業

NO	工 事 名	国 有 林 林 小 班	種 別	主 工 種	数 量	工 期	完 成 年 月 日	備 考
1	屋久島地区治山工事(荒川)	ハ岳, 太忠岳 80い, 85い	重要 自然	吊 橋	m 50	8. 7. 3~ 9. 3. 28	9. 3. 17	沢津橋
2	屋久島地区治山工事(白谷)	宮之浦岳 215い	重要 自然	石張工	ha 0.01	8. 12. 13~ 9. 3. 7	9. 1. 29	白 谷 雲水峡
3	屋久島地区治山工事(白谷Ⅰ)	石 塚 212と	重要 自然	歩道整備	340.8m (478.5m)	8. 12. 19~ 9. 3. 13	9. 1. 29	楠 川 歩 道
4	屋久島地区治山工事(白谷Ⅱ)	宮之浦岳 213は	重要 自然	手摺ロープ 交換工	1 式	8. 12. 17~ 9. 3. 11	9. 1. 29	飛流橋
5	白谷歩道修繕工事	宮之浦岳 217や外	重要 自然	歩道修繕	166H	8. 10. 31~ 8. 11. 30	8. 11. 25	重 機 借 上
	計							

(3) 保安林整備事業

NO	工 事 名	国 有 林 林 小 班	種 別	主 工 種	数 量	工 期	完 成 年 月 日	備 考
1	愛子岳治山事業(除伐)	愛子岳 203ほへ	保安林 改良	除 伐	ha 6.68	9. 2. 28~ 9. 3. 21	9. 3. 21	一次補正
2	愛子岳治山事業(除伐)	愛子岳 203にな	〃	除 伐	7.82	9. 2. 28~ 9. 3. 21	9. 3. 21	一次補正
	計				14.50			

(4) 災害復旧等事業(平成8年度繰越分)

NO	工 事 名	国 有 林 林 小 班	種 別	主 工 種	数 量	工 期	完 成 年 月 日	備 考
1	黒味治山工事(施設災)	黒味 28つ	復 旧 治 山	コンクリート 谷止工	m3 943.1	9. 3. 10~ 9. 11. 20	9. 11. 19	繰 越
2	宮之浦治山工事(関連災)	宮之浦岳 238ろ	〃	〃	991.8	9. 3. 10~ 9. 10. 20	9. 9. 3	繰 越
3	神之川治山工事(関連災)	宮之浦岳 225ち	〃	〃	882.7	9. 3. 10~ 9. 10. 20	9. 9. 12	繰 越
	計							

2 屋久島における雨量観測

(1) 目的

屋久島では、年間4000～8000mmに達する降雨があること、花崗岩特有の表層の浅い地域が多いこと等から、山腹崩壊、土砂流出等の山地災害も多く発生している。

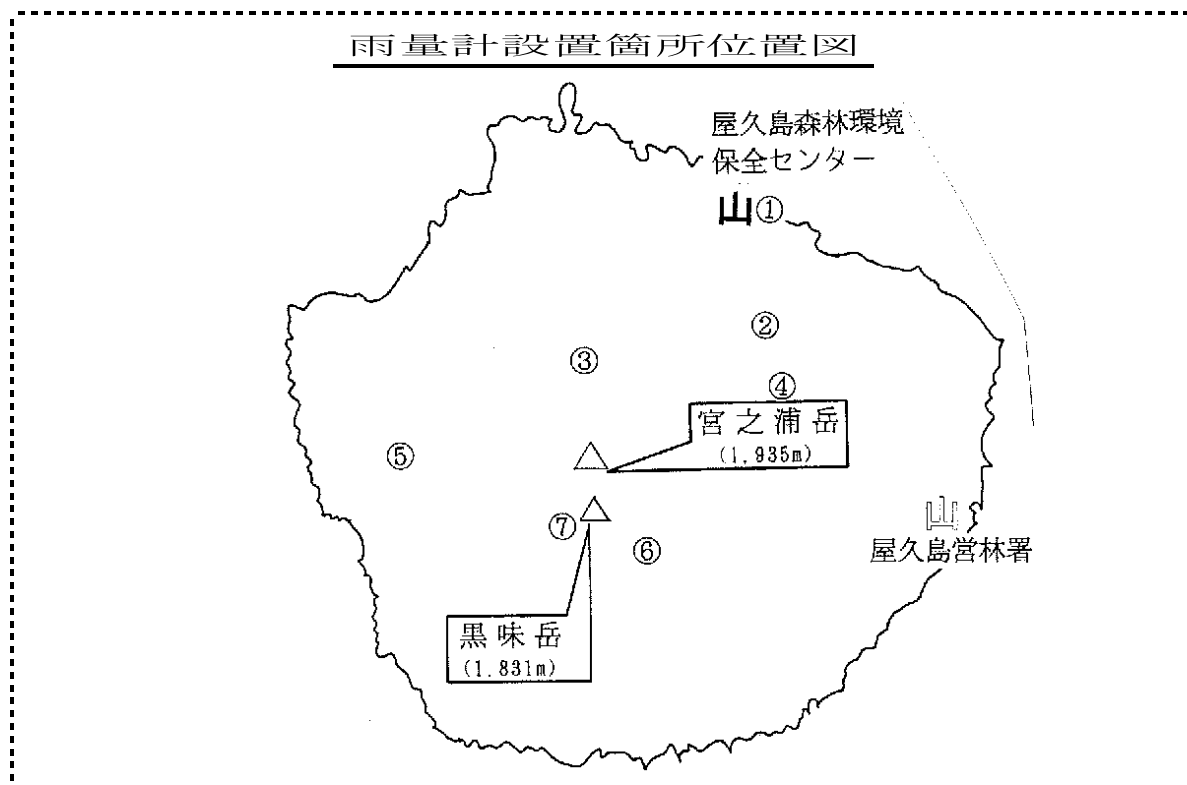
これらのことから、国有林の要所において雨量等の森林気象を観測し、永続的なデータを保存することにより貴重な森林の保全と山地災害防止に資することを目的に雨量計を設置した。

(2) 管理

データの回収・記録管理は屋久島森林環境保全センターで行っている。データ回収については、職員実行で2ヶ月に1回程度行っているが、台風等のいちじるしい気象の変化があった場合はその都度データの回収を行うことにしている。

雨量データは、所報「洋上アルプス」で公表するとともに、関係機関や大学等の研究機関へ提供している。

(3) 雨量計設置箇所位置図



(4) 雨量計設置箇所一覧表

番号	設置箇所	林小班	標高	備考
①	屋久島森林環境保全センター	敷地内	20m	H7年8月31日設置
②	白谷雲水峡入口	216ぬ5	560m	H7年8月31日設置
③	宮之浦林道33支線	233ふ	510m	H8年3月26日設置
④	小杉谷事業所跡	101イ	680m	H8年2月7日設置 融雪器設置
⑤	大川林道	9る	1020m	H8年2月1日設置 "
⑥	淀川登山口	62い	1380m	H7年12月25日設置 "
⑦	黒味岳頂上付近	22ニ	1800m	H8年5月31日設置 "

※④～⑦については、冬季の降雪雨量を測定するため融雪器を設置。

(5) 平成8年度雨量データ一覧表

月\観測点	センター	白 谷	宮之浦	小杉谷	大川林道	淀川入口	黒味岳	備 考
H8. 4月	164.0	276.0	317.0	—	328.0	924.0	—	
5月	154.0	226.0	97.0	129.0	216.0	433.5	—	
6月	372.5	498.5	609.5	649.5	768.5	937.0	752.5	
7月	510.0	900.5	793.0	1012.5	915.5	1291.5	912.0	台風6号
8月	598.0	1049.5	1155.5	947.5	578.5	1034.0	697.0	
9月	631.5	2160.5	2057.0	2145.5	146.5	1832.0	1246.5	台風21号
10月	7.0	373.0	312.5	—	11.0	210.5	312.5	
11月	224.5	343.0	277.0	361.5	187.5	316.0	215.0	
12月	174.5	259.0	339.5	315.0	296.0	306.0	163.0	
H9. 1月	168.0	223.5	275.0	276.5	197.5	237.5	123.0	
2月	205.0	379.0	176.5	242.5	151.0	223.0	128.5	
3月	251.5	327.0	343.5	600.0	417.5	21.0	359.0	
合 計	3460.5	7015.5	6753.0	6679.5	4213.5	7766.0	4909.0	

(6) 欠測期間

各観測点では、ロガーの故障や電池切れ等により、データを観測していない欠測期間がある。各観測点の欠測期間は次のようになっている。

観 測 点	欠 測 期 間
保全センター	H8年7月13日～16日, H8年10月3日～11月10日, H9年1月15日
白谷観測点	H8年5月2・3日, H9年3月6日
宮之浦観測点	H9年3月6日
小杉谷観測点	H8年4月1日～5月11日, H8年10月1日～11月1日, H9年1月14・15日
大川観測点	H8年4月1日～18日, H8年10月2日～11月10日, H9年1月14・15日
淀川観測点	H8年10月23日～31日, H9年3月7日～31日
黒味岳観測点	H8年4月1日～6月2日, H8年11月7日～10日

Ⅲ 普及教育・森林空間利用

1 森林教室の実施

項 目	上屋久町ふるさと森林教室	実施年月日	平成8年5月25日(土)
場 所	白谷雲水峡～白谷山荘		
ね ら い	① 郷土の自然についての理解を深め、郷土を愛し、自然を守り育てる態度を養うとともに自然の有効な活用の仕方について理解を深める。 ② 散策活動、団体行動をとおして体力・忍耐力を養い、連帯感を育てるとともに、公衆道徳を身につけさせる。		
依 頼 者 等	上屋久町教育委員会		
対 象 者	上屋久町の小学5年生 48名		
引 率 者	上屋久町小学校教員 8名 教育委員会職員 6名		
講 師	屋久島森林環境保全センター職員 6名 森林官 2名		
実 施 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8:45～9:00(出発式)調整官あいさつ及び講師のグループ担当紹介 ・ 9:50～10:20諸注意及び講話 ・ 10:20～14:10現地説明及び学習会 ・ 14:10～14:20質問コーナー 		
実 施 結 果	白谷雲水峡のパンフを全員に配布、パンフにより現地説明を行う。 地元の小学生であったが、白谷雲水峡は初めての者が多く好評であった。 予定どおり全員無事に下山、記念にボールペンを配布した。		

項 目	太古から未来へのふれあい体験in屋久島・種子島	実施年月日	平成8年7月26日(金)
場 所	縄文杉周辺		
ね ら い	世界自然遺産の屋久島、鉄砲伝来と宇宙センターがある種子島で、神秘的な大自然、先端的な宇宙開発技術、豊かな伝承文化の一端に触れると共に、地元の子供達との交流や様々な遊びの中での体験活動、ボランティア活動等により、生きる力や他の人々を思いやる心、感動する心を備えた青少年を育てる。		
依 頼 者 等	鹿児島県立青少年研修センター		
対 象 者	鹿児島県内の小学5年生から高校生までの生徒 110名		
引 率 者	青少年研修センター職員等 30名		
講 師	屋久島森林環境保全センター職員 所長外 5名		
実 施 内 容	縄文杉登山のしおりを全員に配布、縄文杉をバックに世界自然遺産や屋久島の自然の特徴、縄文杉、自然保護等について所長が説明。		
実 施 結 果	当日は、上屋久町教育委員会の「チャレンジ・ザ・縄文杉」の参加者25名も同時に実施縄文杉の着生植物の種類、縄文杉の中はどうなっているかなど数多くの質問があり、関心の高さを示していた。		

項 目	東洋工学専門学校建築エコシ [®] -科2年屋久島実習	実施年月日	平成8年9月25日(水) 平成8年9月26日(木)
場 所	保全センター・白谷雲水峡		
ね ら い	屋久島の自然環境と人間の利用について学習		
依 頼 者 等	東洋工学専門学校建築エコシ [®] -科		
対 象 者	東洋工学専門学校建築エコシ [®] -科2年生 25日31名・26日32名		
引 率 者	東洋工学専門学校建築エコシ [®] -科講師 25日2名・26日1名		
講 師	屋久島森林環境保全センター職員 25日所長外4名 26日大寺専門官外3名		
実 施 内 容	9:00～10:00まで保全センター会議室で屋久島の概要等について学習。 10:30から白谷雲水峡で、屋久島の植物・白谷雲水峡の利用等について学習。		
実 施 結 果	屋久島の植物、白谷雲水峡の整備のあり方等について深い関心を示していた。 白谷雲水峡での実習をあと4回予定していたが、台風の影響で中止となった。		

項 目	太忠岳登山（遠足）	実施年月日 平成8年10月18日（金）
場 所	ヤクスギランド～蛇紋杉～太忠岳	
ね ら い	天柱石のそびえる太忠岳まで、屋久杉の原生林の中を植物や昆虫を観察しながら、森林浴と風景を楽しむとともに、昔から屋久島に伝わる岳参りの文化に触れ自然を愛する心を養う。	
依 頼 者 等	屋久町安房小学校	
対 象 者	屋久町安房小学校6年生	
引 率 者	屋久町安房小学校職員	
講 師	百田専門官	
実 施 内 容	森林の構成や、植物、昆虫等の話を聞きながら、ゆっくりと森林浴と風景を楽しみ、太忠岳を目指す。	
実 施 結 果	参加案内には、年齢制限、登山コースの時間割等本格的な登山であるとの配慮が少なかったように思われる。	

項 目	第5回環境学習セミナー 【南の島の秋を見つけよう～屋久島・秋物語～】	実施年月日 平成8年11月9日（日）
場 所	ヤクスギランド～太忠岳	
ね ら い	世界遺産に登録された屋久島での野外体験活動や自然観察実習、交流活動など様々な体験を通して人と自然の関わりや地元で生活する人々の文化を学ぶとともに、環境保全への意識を高めるため。	
依 頼 者 等	屋久島環境文化研修センター自主事業	
対 象 者	一般（高校生以上） 20名	
引 率 者	屋久島環境文化研修センター職員等 3名	
講 師	調整官・百田専門官・営林署経理係長（森林インストラクター）	
実 施 内 容	ヤクスギランドから太忠岳までの紅葉や植物分布、奇岩などの様子を観察する。	
実 施 結 果	屋久島環境文化研修センター主催事業のイベントに、営林署の森林インストラクターとともに協力し好評であった。参加者は、ヤクスギランドから太忠岳までの植生の変化や景観のすばらしさに、深い感銘を受けていたようであった。	

2 森林空間利用（森林環境整備推進協力金）

（1）ヤクスギランド森林環境整備推進協力金の実施

ア 目的及び趣旨

この事業は、増大する国民のレクリエーション利用に対応し、国民の協力を得て、国民のレクリエーションの森の森林及び利用施設の整備及び環境美化等を行い、もってレクリエーションの森の良好な保全と利用者の快適な利用を促進することを目的に、平成5年4月1日より導入しているものである。

イ 事業の内容

この事業は、屋久島自然休養林荒川地区（通称ヤクスギランド＝以下「ヤクスギランド」という。）の利用者に快適な森林レクリエーションの場を供給するためヤクスギランドの整備等に要する経費の一部について、ヤクスギランドの利用者の協力を求める（利用者から自主的に拠出される資金＝以下「森林環境整備推進協力金」という。）ことにより、ヤクスギランドの整備等を進めるものとする。

ウ 森林環境整備推進協力金

利用者から拠出された森林環境整備推進協力金は、すべて国庫に収納されることになるが、その金額に相当する金額をヤクスギランドの整備等に要する経費に充てることを基本とする。

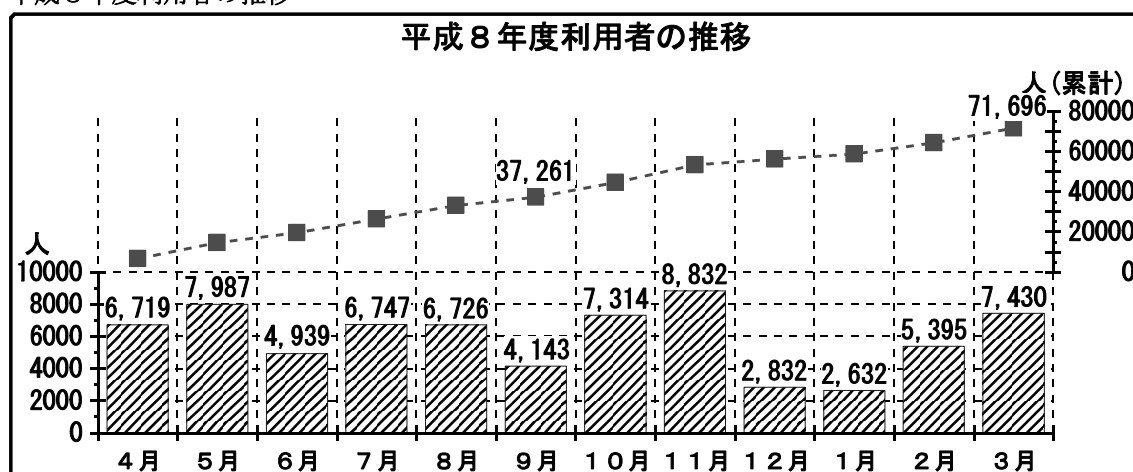
エ 森林環境整備推進協力金の実施業務等

- ① 金額 高校生以上 1人 300円（利用者の任意拠出とする。）
- ② 受領方法 屋久島営林署長が「ヤクスギランドを美しくする会」と委託契約を締結し、受領された「協力金」は、一ヶ月分を取りまとめて国の納入告知書により国庫へ納付する。

オ 「ヤクスギランドを美しくする会」について

- ① 会の構成等 屋久町、上屋久町、屋久町区長連絡協議会、屋久町青年団連絡協議会、屋久町観光協会、屋久町商工会、屋久島交通、屋久島交通タクシー、まつばんだ交通、安房タクシー、屋久町旅館組合代表、屋久町女性連絡協議会の12団体。
- ② 業務内容 主として協力金受領業務を行う外、毎年度締結する屋久島営林署長との委託契約において定められた業務を行う。例えば、林内の清掃業務・各種パンフレット等の作成発行・駐車場の整理・環境美化啓発等。
- ③ 会の運営 屋久島営林署長との委託契約に基づいて支払われる委託契約金を主たる運営費とする。運営費の支出は、総会、理事会等の決定に基づいて使用させることになるが、事業の目的以外に使用する事はできない。

カ 平成8年度利用者の推移



キ 平成8年度協力金の徴収実績

21,657,388円

(2) 白谷雲水峡森林環境整備推進協力金の実施

ア 目的及び趣旨

この事業は、増大する国民のレクリエーション利用に対応し、国民の協力を得て、国民のレクリエーションの森の森林及び利用施設の整備及び環境美化等を行い、もってレクリエーションの森の良好な保全と利用者の快適な利用を促進することを目的に、平成8年4月1日より導入しているものである。

イ 事業の内容

この事業は、屋久島自然休養林白谷地区（通称白谷雲水峡＝以下「白谷雲水峡」という。）の利用者に快適な森林レクリエーションの場を供給するため白谷雲水峡の整備等に要する経費の一部について、白谷雲水峡の利用者の協力を求める（利用者から自主的に拠出される資金＝以下「森林環境整備推進協力金」という。）ことにより、白谷雲水峡の整備を進めるものとする。

ウ 森林環境整備推進協力金

利用者から拠出された森林環境整備推進協力金は、すべて国庫に収納されることになるが、その金額に相当する金額を白谷雲水峡の整備等に要する経費に充てることを基本とする。

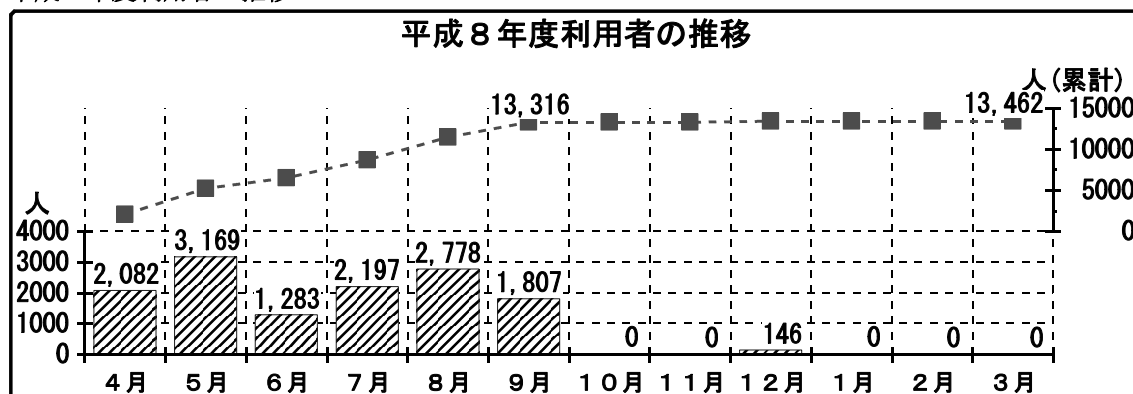
エ 森林環境整備推進協力金の実施業務等

- ① 金額 高校生以上 1人 300円（利用者の任意拠出とする。）
- ② 受領方法 屋久島営林署長が「大自然緑の会」と委託契約を締結し、受領された「協力金」は、一ヶ月分を取りまとめて国の納入告知書により国庫へ納付する。

オ 「大自然緑の会」について

- ① 会の構成等 上屋久町、屋久町、上屋久町観光協会、上屋久町商工会、屋久島交通、屋久島交通タクシー、まっばんだ交通、安房タクシー、上屋久町旅館組合、屋久島民宿ペンション協会代表等の他、本会の主旨に賛同する団体をもって組織する。
- ② 業務内容 主として協力金受領業務を行う外、毎年度締結する屋久島営林署長との委託契約において定められた業務を行う。
例えば、白谷雲水峡の自然保護・白谷雲水峡の清掃及び環境美化啓発・駐車場の整理・その他本事業の実施に付帯する業務。
- ③ 会の運営 屋久島営林署長との委託契約に基づいて支払われる委託契約金を主たる運営費とする。
運営費の支出は、総会、理事会等の決定に基づいて使用させることになるが、事業の目的以外に使用する事はできない。

カ 平成8年度利用者の推移



キ 平成8年度協力金の徴収実績

3,612,007円

ク その他

- ① 平成8年4月1日から「大自然緑の会」と委託契約により森林環境整備協力金制度を導入。
- ② 平成8年10月1日から平成9年11月30日及び平成8年12月14日から平成9年3月31日まで、台風13号の影響で県道白谷公園線不通のため協力金徴収は行っていない。

3 レクリエーションの森等施設点検実施状況

実施月日	実施場所	実施者	実施内容等
8年10月2日	白谷雲水峡	迫田 百田	◆広場～飛流橋～さつき吊橋～弥生スギ～広場 ・台風21号接近に伴う大雨後の点検を行う。 ・各コースとも異常なし。
8年10月7日	ヤクスギランド	百田	◆入口～林泉橋～荒川橋～荒川歩道（沢津橋）～仏陀スギ～双子スギ～出口 ・各コースとも異常なし。
8年10月21日	白谷雲水峡	百田 下村 米丸	◆楠川林道終点～楠川歩道～辻峠→折り返し ・楠川歩道は三本スギまでの間、倒木処理13箇所、崩石処理7箇所を行い通行に支障ないようにした。
8年11月28日	白谷雲水峡	百田	◆広場～さつき吊橋～弥生スギ～広場 ・弥生スギの10m下方地点の歩道に風倒木が滑落、一部石張歩道の側面を破損している。 ・風倒木（3箇所）を通行の支障にならないよう処理した。 ・その他異常なし。
8年12月25日	縄文杉展望デッキ	山下 下崎	◆白谷林道～縄文スギ→折り返し ・デッキのゆるみ等異常がないかチェック。 ・特に異常なし。
9年1月13日	ヤクスギランド	百田 下村 牧	◆入口～林泉橋～荒川橋～仏陀スギ～出口、紀元スギ歩道 ・特に施設内の手すりに重点をおいて点検。 ・荒川橋の両袖口、手すりを補修する。 ・一部の手すりにゆるみの部分があり補強する。 ・紀元スギ歩道は積雪中であるが、手すり等異常なし。 ・手すりの内ボルトのゆるみ箇所があるので、次回点検時に補強すること。
9年3月5日	ヤクスギランド	百田	◆入口～林泉橋～荒川橋～仏陀スギ～出口、紀元スギ歩道 ・木道の板張、手すりの点検を行う。 ・特に異常なし。 ・手すりのゆるみを補強した。
9年3月31日	白谷雲水峡	井手 下池 下崎 下村 牧	◆入口～弥生スギ～飛流橋～飛流歩道～広場 ◆入口～二代大スギ～さつき吊橋～楠川歩道～広場 ・弥生スギから約10m行った所の歩道のブロックがガタついていたので、下部に石等をつめて補修する。 ・弥生歩道と苔河原の間の手すりの取り付け箇所がゆるんでいたため、くさびを打ち込んで補強する。 ・さつき吊橋右岸歩道の石がはずれていたため、石を据え直し固定する。 ・憩いの大岩から谷川へ向かうところに、立入防止用のトラロープ等の措置が必要。

4 保全センター作成ガイドブック等の紹介

しおり名	内容等	備考
世界自然遺産セウガトブック 屋久島の森林	・屋久島の歴史、自然、主要登山道を紹介し、屋久島の森林に関する教育、啓発活動を行っている。 ・1冊1,000円で、保全センターや島内の主な観光土産物店等で販売している。	
縄文スギ登山のしおり	・縄文スギまでの所要時間やコースの主な巨木・地名を紹介するとともに、屋久島の自然に関する主な説明等を行い、縄文スギ登山のハンドブックとして活用している。	
白谷雲水峡の概要	・白谷雲水峡で見られる主な樹木の特徴やヤクスギの説明等を行い、林内散策のハンドブックとして活用している。	英文も作成している
ヤクスギランドの概要	・ヤクスギランドの設定経緯や林分状況、年間入林者数や施設整備状況等を紹介し、研修資料等に活用している。	

5 広報活動

(1) 保全センター所報「洋上アルプス」の作成

作成の主旨	保全センター業務の紹介や活動報告，保全センター所有データ等の提供を行い，地元地域や関係機関の理解を深めるとともに，保全センターのPR活動を行う。
主な送付先	平成9年3月31日現在 島内（上屋久町） 上屋久町役場・上屋久町教育委員会・歴史民俗資料館・上屋久町観光協会・大自然緑の会・屋久島環境文化村センター・屋久島区検察庁・屋久島測候所・屋久島電工・屋久島森林組合・上屋久町商工会・屋久島野生植物研究所・屋久島野外活動センター（Y N A C）・（有）生命の島・屋久島交通・まつばんだ交通・ガイド等 島内（屋久町） 屋久町役場・熊毛支庁屋久島事務所・環境庁世界遺産センター・屋久杉自然館・屋久島環境文化研修センター・ヤクスギランドを美しくする会・屋久島警察署・屋久町観光協会・屋久町商工会・屋久島ガイド協会・屋久島フルーツガーデン・南西セキュリティサービス（株）・（有）自然島・屋久島交通・安房タクシー・まつばんだ交通 島外 熊本営林局（広報室へ依頼し他局へも送付）・林木育種センター九州育種場・森林総合研究所九州支所・全林野，日林労両労働組合・鹿児島県林務水産部林業振興課・鹿児島県林務水産部森林保護課・鹿児島県環境生活部環境保護課・鹿児島県商工労働部観光課・鹿児島県青潮会（県庁記者クラブ）・熊毛支庁農林水産課・屋久島林業開発公社・鹿児島大学 鈴木英治・鹿児島大学 枚田邦宏・九州大学 吉田茂二郎・高知大学 江口卓・東京大学 松本淳・千葉大学 大沢雅彦・北海道大学 甲山隆司・京都大学 東滋
その他	作成は保全センター職員が持ち回りにより担当，毎月5日に発行し8年度末まで24号を発行。

(2) 保全センター7年度年報の作成

作成の主旨	平成7年度の保全センター業務や活動内容等をまとめ，地元地域や関係機関の理解を深める。
主な送付先	島内（上屋久町） 上屋久町役場・上屋久町教育委員会・上屋久町観光協会・大自然緑の会・屋久島環境文化村センター・屋久島測候所・屋久島電工・屋久島森林組合・上屋久町商工会・屋久島野生植物研究所・（有）生命の島 島内（屋久町） 屋久町役場・熊毛支庁屋久島事務所・環境庁世界遺産センター・屋久杉自然館・屋久島環境文化研修センター・屋久島警察署・屋久町観光協会・屋久町商工会 島外 熊本営林局・熊本営林局管内各営林署及び森林技術センター・各営林支局・秋田営林局藤里森林センター・森林総合研究所九州支所・森林総合研究所（九州以外）・林木育種センター九州育種場・林木育種センター（九州以外）・森林技術総合研修所・鹿児島県林務水産部林業振興課・鹿児島県林務水産部森林保護課・鹿児島県環境生活部環境保護課・鹿児島県商工労働部観光課・鹿児島県青潮会（県庁記者クラブ）・熊毛支庁農林水産課・屋久島林業開発公社・鹿児島大学 鈴木英治・鹿児島大学 枚田邦宏・九州大学 吉田茂二郎・高知大学 江口卓・樹木医 古城元夫，瀬戸正徳・鹿児島県森林組合連合会
その他	平成9年2月に発行。

(3) セルフガイドブック「屋久島の森林」の販売

内容等	屋久島の歴史，自然，主要登山道等を紹介し，屋久島の森林に関する教育，啓発活動を行う。 平成8年6月7日から販売開始。規格：B6判オールカラー印刷，87頁。一冊1，000円。
販売場所	屋久島森林環境保全センター，白谷雲水峡協力金徴収所，屋久島観光センター
平成8年度販売部数	743冊

IV その他の事業

1 森林パトロールの実施

(1) ゴールデンウィーク期間中

年 月 日	平成8年4月27日		土曜日		天気 晴れ			
監視場所	縄文杉周辺							
監視員氏名	山下 孝親 河本 正人							
時 間	～10:30	～11:00	～11:30	～12:00	～12:30	～13:00	～13:30	合 計
登山者数 (山泊者)	1人 (0人)	12人 (2人)	12人 (1人)	19人 (2人)	3人 (2人)	5人 (0人)	11人 (0人)	63人 (7人)
監視指導内容 登山者の動向 感想等	10:30～13:30までパトロール 滋賀県から女性1人で旅行 2人のグループで4泊5日の登山 東京、大阪、鹿児島から集まって旅行 筑波から家族で旅行(初めての登山)							

(2) 夏休み期間中

年 月 日	平成8年7月25日		木曜日		天気 晴れ			
監視場所	荒川登山口							
監視員氏名	百田 喜久郎 大寺 義宏							
時 間	～6:00	～6:30	～7:00	～7:30	～8:00	～8:30	合 計	
登山者数 (山泊者)	0人 (0人)	10人 (0人)	18人 (0人)	9人 (0人)	0人 (0人)	4人 (0人)	41人 (0人)	
駐車台数 の状況	タクシー5台, 普通車(県外)2台, レンタカー10台							
監視指導内容 登山者の動向 感想等	6:00～8:30までパトロール 荒川終点が工事のため, 舗装道路の脇に駐車するよう指導した。							

年 月 日	平成8年8月10日		土曜日		天気 : 曇時々雨			
監視場所	荒川登山口							
監視員氏名	山下 孝親 下村 治雄							
時 間	～6:00	～6:30	～7:00	～7:30	～8:00	～8:30	～9:00	合 計
登山者数 (山泊者)	0人 (0人)	6人 (0人)	32人 (0人)	20人 (0人)	10人 (0人)	2人 (0人)	8人 (0人)	78人 (0人)
駐車台数 の状況	タクシー5台, 普通車(県内)4台, 普通車(県外)3台, レンタカー12台							
監視指導内容 登山者の動向 感想等	6:00～9:00までパトロール 軽装の登山者が目立った。							

年 月 日	平成8年7月26日		金曜日		天気 : 晴れ	
監視場所	縄文杉周辺		監視員氏名 : 迫田, 下崎, 下池, 河本, 牧			

年 月 日	平成8年8月2日		金曜日		天気 : 晴れ	
監視場所	縄文杉周辺		監視員氏名 : 山下			

年 月 日	平成8年8月9日		金曜日		天気 : 晴れ	
監視場所	縄文杉周辺		監視員氏名 : 山下			

(3) その他の期間

年 月 日	平成8年4月24日		水曜日		天気 : 晴れ一時曇り	
監視場所	縄文杉周辺		監視員氏名 : 山下, 下村, 下池			

2 資料室の整備

(1) 保全センター保有図書一覧表

番号	誌 名	著 者 (編集者)
1	7000年の記憶 屋久島 (世界遺産条約自然遺産登録記念出版写真集)	
2	Pollnaton Systems in a Warm Temperate Evergreen Broad-leaved Forest on Yaku Island.	
3	Pollnaton Systems in the Cool Temperate Mixed Coniferous and Broad-leaved Zone of Yakushima Island.	
4	Pseudosasa Owatarii as a Forage for Sika Deer on Yakushima Island. (ヤクシカの食物としてのヤクシマダケ)	高槻成紀
5	Stand Dynamics in a Primary Warm Temperate RainForest Analyzed by the Diffusion Equation.	
6	Summer Dietary Compositions of Sika Deer on Yakushima Island Southern Japan.	
7	愛知県内のニホンザルの現状 (指定鳥獣保護調査報告書) 平成6年3月	
8	亜熱帯地域の奄美群島、種子島、屋久島の林業と林政の方向 (I)	篠原武夫
9	亜熱帯地域の奄美群島、種子島、屋久島の林業と林政の方向 (II)	篠原武夫
10	委託林台帳 (大正14年調整)	上屋久営林署
11	委託林台帳 (昭和7年8月設定)	上屋久営林署
12	委託林台帳	上屋久営林署
13	委託林期間更新に関する書類 (自:昭和22年8月 至:昭和27年7月)	上屋久営林署
14	委託林台帳 (昭和12年8月起)	上屋久営林署
15	委託林台帳 (昭和15年5月起)	上屋久営林署
16	大隅諸島、屋久島の陸生脊椎動物相について	森田忠義 (鹿児島中央高校生物科)
17	開墾適地実測図 (大正12年)	上屋久営林署
18	鹿児島県屋久島におけるシカ被害の現状	末吉政秋
19	鹿児島大学農学部附属高隈演習林気象報告 (1990年~1991年)	地頭蘭隆, 下川悦郎, 馬場英隆
20	鹿児島大学農学部附属高隈演習林気象報告 (1992年~1993年)	地頭蘭隆, 下川悦郎, 馬場英隆
21	鹿児島大林区屋久島小林区屋久島北事業区森林調査簿 (大正12年3月)	
22	上屋久経営区経営基本案昭和26年第四次編成	吉田担当区事務所
23	上屋久経営区第4次経営案説明書 (昭和26年度) 調査	熊本営林局 上屋久営林署
24	上屋久経営区経営基案 (昭和26年第四次編成)	永田担当区事務所
25	上屋久経営区経営基案 (昭和26年第四次編成)	吉田担当区事務所
26	上屋久経営区森林調査簿 (昭和26年第四次編成)	永田担当区事務所
27	上屋久経営区森林調査簿 (昭和26年第四次編成)	吉田担当区事務所 (吉田地区)
28	上屋久経営区森林調査簿 (昭和26年第四次編成)	吉田担当区事務所 (永田地区)
29	上屋久経営区森林調査簿 (自:28年度 至:37年度)	昭和26年度第四次編成
30	上屋久公有林野官行造林地森林調査簿施行基案 (昭和32年度~昭和41年度)	昭和30年度第2次編成
31	上屋久町の埋蔵文化財 (遺跡分布調査報告書)	上屋久町教育委員会 鹿大法学部
32	上屋久町の民俗	上屋久町教育委員会 鹿大法学部
33	管内看板 林道被害一湊部内登山の一部管内概要参考	
34	希少森林植物の生存環境の解明およびジーンダイバステイアの評価と保全法の確立	研究代表者 斉藤明
35	旧財産台帳	
36	口良部島のエラブオオコウモリ	上屋久町教育委員会
37	熊本郡上屋久村処分調査図写 (昭和12年)	
38	熊毛国国有林の地域別森林計画書(H4.4.1~H13.3.31)(熊毛森林計画区)	熊本営林局
39	熊本営林局署退職者名簿 (昭和42年1月1日現在)	林野弘済会 熊本支部
40	くまもと自然休養林参考写真集	
41	経営基案	
42	経営計画一覧表 (昭和39年11月1日現在)	熊本営林局 計画課
43	経営方針書作成の手引き (昭和43年5月)	熊本営林局 企画室
44	公有林野官公造林案説明書 (上屋久施設区)	上屋久営林署
45	公有林野官行造林台帳	
46	国有林野における森林レクリエーションの現状 (屋久杉ランド利用者の意向)	馬場裕典
47	災害写真集	
48	最近の南西諸島の林業 (上) (奄美群島、種子島、屋久島)	篠原武夫
49	最近の南西諸島の林業 (下) (奄美群島、種子島、屋久島)	篠原武夫
50	作業道新設箇所 (共用林18林班関係)	

番号	誌名	著者(編集者)
51	四季を通ずる降水量の配布状態がスギ、ヒノキに及ぼす影響(1940)	河田杰
52	自然休養林 白谷雲水峡	
53	司法事務関係書類綴り(署長用)	
54	・伐及び造林照査簿調整様式	上屋久営林署
55	・伐照査簿(甲)(自:昭和18年度 至:昭和27年度)	
56	昭和11年官吏ノ進退賞罰ニ関スル書類	上屋久営林署
57	昭和13年施業沿革史	上屋久営林署
58	昭和14年準例規	上屋久営林署
59	昭和15年屋久島北東南事業区施業案説明書	鹿児島大林区署
60	昭和16年度屋久島東南北事業区施業案説明書	熊本営林局
61	昭和16年度屋久島東南北事業区施業方針書	熊本営林局
62	昭和18年度施業沿革史	上屋久営林署
63	昭和25年度調整造林地沿革調査カード	上屋久営林署
64	昭和26年度調査第四次経営案説明書	上屋久営林署
65	昭和26年度調査第四次経営案方針書(現地審議会用)	上屋久営林署
66	昭和26年度不要存地台帳	上屋久営林署
67	昭和29年度計画に関する書類	上屋久営林署
68	昭和2年機号例規	屋久島小林区署
69	昭和30年度第2次編成, 施業計画説明書(公有林野官行造林地)(32~41)	熊本営林局上屋久営林署
70	昭和33年営林署並びに担当区登録簿	上屋久営林署
71	昭和39年度経営案に関する書類	経営課
72	昭和41年度経営計画に関する書類	上屋久営林署
73	昭和42年度経営計画に関する文書	上屋久営林署
74	昭和43年度経営計画に関する文書	上屋久営林署
75	昭和45年度経営計画に関する文書	上屋久営林署
76	昭和45年度経営方針書(昭和45年4月)	上屋久営林署
77	昭和46年度経営計画に関する文書	上屋久営林署
78	昭和46年度経営方針書(昭和46年4月)	上屋久営林署
79	昭和47年度第2次地域施業計画5ヶ年計画	上屋久営林署(取扱注意)
80	昭和47年度地域施業計画の樹立および変更に関する文書	上屋久営林署
81	昭和48年度造林請負関係検査写真集	
82	昭和49年度製品生産事業写真帳	
83	昭和49年度造林事業請負検査	
84	昭和50年度以降要除伐林分写真	
85	昭和51年度地域施業に関する文書	上屋久営林署
86	昭和55年度地域施業の樹立及び変更に関する文書	上屋久営林署
87	昭和57年度地域施業計画に関する書類	上屋久営林署
88	昭和7年度以降年期貨付台帳	楠川担当区
89	植物学雑誌(THE BOTANICAL MAGAZINE, TOKYO)	前川文夫
90	植物の宝庫・屋久島を守れ	
91	白谷雲水峡	
82	白谷外	
93	資料(昭和34年10月)	林野庁林政部 職員課
94	森林開発と自然保護(屋久島国有林を中心として)	青木尊重
95	森林施業と自然保護(第23回森林経理研究会シンポジウム)	森林土木連合協会
96	森林土木写真集	
97	世界遺産屋久島	日下田紀三
98	世界遺産条約, その概要と平成4年の我が国の「世界遺産一覧表」への推薦候補地について	内田敏博
99	全国森林資源調査の実施について	36熊経第2417号外
100	高隈演習林における雨量観測記録	地頭蘭隆, 下川悦郎, 馬田英隆
101	第1次地域施行計画伐採造林計画簿(自:45.4.1 至:52.3.31)	上屋久営林署
102	第27回太陽国体山岳競技大会参考写真集	
103	第2次経営計画森林調査簿(自:昭和37年4月 至:昭和42年3月)	永田担当区事務所
104	第2次経営計画森林調査簿(自:昭和37.4.1 至:昭和42.3.31)	
105	第2次経営計画伐採造林計画簿(自:昭和37年4月 至:42年3月)	永田担当区

番号	誌名	著者(編集者)
106	第3次経営計画伐採造林計画簿(自:42.4.1至:47.3.31)	上屋久営林署
107	第3次地域施業計画書(案)(昭和52.4.1~昭和62.3.31)	
108	第四次地域施行計画・陳情書	上屋久営林署
109	第五次地域施業計画樹立に関する書類綴り	上屋久営林署
110	地域施業計画の一斉変更について	63熊計第102号外
111	直営団地27, 28, 29, 31, 32, 33林班の林相写真	
112	特定鳥類等調査(屋久島)	環境庁鳥類保護課
113	南西島経営計画区第1次経営計画書(33~36年)	上屋久営林署
114	南西島経営計画区上屋久事業区森林調査簿(自:昭和33年度至:昭和36年度)	
115	南西島経営計画区上屋久事業区森林調査簿	永田担当区事務所
116	南西島経営計画区事業計画簿(自:昭和33年度至:昭和36年度)	
117	南西島経営計画区第3次経営計画森林調査簿(自:42.4.1至:47.3.31)	
118	南西島経営計画区第1次経営計画書(基本事項)(自:33.年度至:36年度)	熊本営林局 計画課
119	南西島経営計画区第2次経営計画編成方針書(自:37.4.1至:42.3.31)	熊本営林局 計画課
120	南西島経営計画区第2次経営計画書(自:37.4.1至:42.3.31)	熊本営林局 計画課
121	南西島経営計画区第3次経営計画書(自:42.4.1至:47.3.31)	熊本営林局 計画課
122	南西島経営計画区第1次地域施業計画書(45.4.1~52.3.31)	熊本営林局
123	南西島経営計画区第2次地域施業計画第1次変更計画書(自:47.4.1至:57.3.31)	熊本営林局 計画課
124	南西島地域施業計画区第3次地域施業計画の事業別内訳書	上屋久事業区
125	南西島地域施業計画区第3次地域施業計画書(52.4.1~62.3.31)	
126	南西島地域施業計画区第4次地域施業計画書(57.4.1~67.3.31)	
127	南西島地域施業計画区第5次地域施業計画書(62.4.1~72.3.31)	
128	南西島地域施業計画区第5次地域施業計画書(62.4.1~72.3.31)第1次変更計画書	
129	日本モンキーセンター年報(昭和62年度)	
130	農林漁業などにおける問題別の調査報告書(第1集)	堤元
131	残る屋久島の常緑広葉樹林の保護を	山根銀五郎
132	のびゆく上屋久町	
133	伐採計画補助簿(33~36年度)	
134	ヘリ集材写真外(63年度)	
135	別冊, 森林の所有する機能別の森林所在の一覧表(熊毛森林計画区)	熊本営林局
136	マイクロ無線中継所及び道路新設に伴う国有林被害写真NO.1	
137	マイクロ無線中継所及び道路新設に伴う国有林被害写真NO.2	
138	松形局長来署外	
139	宮崎自然休養林, おおすみ自然休養林	
140	宮之浦事業所直営団地及永田川流域現況写真	
141	宮之浦岳登山コース内風景	
142	明治39年部分林台帳附属図面	屋久島小林区署
143	めずらしい屋久島の植物(特殊な条件下に育つ固有植物たちの姿)	迫静男
144	モンキー(屋久島特集)NO.197.198.199	幸丸政明
145	屋久島	
146	屋久島・安房林道において餌付いたサルの社会構成と繁殖状況	揚妻直樹
147	屋久島花崗岩地帯における山くずれの周期性	下川悦郎, 地頭蘭隆
148	屋久島環境文化懇談会報告	鹿児島県
149	屋久島北事業区森林調査簿(昭和16年度第二次検訂)	
150	屋久島原生林をどう未来へ残すか	東滋
151	屋久島国有林の小面積伐採区におけるスギの更新成績	青木尊重(九大演)
152	屋久島産ガジュツ抽出物及び単離成分の抗潰瘍作用	渡辺和夫, 柴田昌裕, 矢野真吾, 葵陽, 渋谷博考, 北川勲
153	屋久島自然休養林(白谷地区)写真集	
154	屋久島自然保護運動の展開過程(地域開発と自然保護の間で)	藤原三夫
155	ヤクシマシヤクナグと高山植物	
156	屋久島森林・林業総鑑(上巻)	
157	屋久島森林・林業総鑑(中巻)	
158	屋久島森林・林業総鑑(下巻)	
159	屋久島森林問題を考える	萩野敏雄
160	屋久島瀬切川流域の温帯針葉樹林の令構成と変更過程	鈴木英治, 薄田二郎

番号	誌名	著者(編集者)
161	屋久島調査報告書	運輸省第四港湾建設局
162	屋久島調査報告書	運輸省第四港湾建設局
163	屋久島で初の本格的総合学術調査	瀧口正三
164	屋久島と屋久杉	藤田晋輔
165	屋久島土面川流域の降雨特性について	陶山正憲
166	屋久島土面川における水門観測施設の設置と試験流域の地形、地質、植生	地頭菌隆、下川悦郎、前道俊一
167	屋久島土面川流域における降雨・流出特性	地頭菌隆、下川悦郎
168	屋久島永田～栗生林道調査報告書	辻本克己、大草克己
169	屋久島永田における山くずれ、土石流災害(その1)	下川悦郎、岩松暉
170	屋久島永田における山くずれ、土石流災害(その2)	下川悦郎、岩松暉
171	屋久島南事業区施業基案	
172	屋久島における択伐国材林実行の手引	
173	屋久島における山岳降水量の分布特性について	陶山正憲、竹下幸
174	屋久島における森林棲鳥類の垂直分布 1 繁殖期	江口和洋、武石全滋、永田尚志、逸見泰久、川路則友
175	屋久島における森林棲鳥類の垂直分布 2 非繁殖期	江口和洋、武石全滋、永田尚志、逸見泰久
176	屋久島におけるスギ天然林施業に関する基礎研究	吉田茂二郎、今永正明
177	屋久島におけるスギ天然林のアイソザム変異	津村義彦、大庭喜八郎
178	屋久島花崗岩、由来の土壌中の粘土鉱物組成と分布的特徴	岩佐安、山家富美子
179	屋久島の環境保全と森林施業利用体系に関する研究	迫静男、下川悦郎、地頭菌隆、藤田晋輔、吉田茂二郎
180	屋久島の概況	熊本営林局
181	屋久島の原生林を訪ねて	柳文治郎
182	屋久島の固定試験地におけるスギ天然林の構造と成長について	吉田茂二郎、今永正明
183	屋久島の固定試験地におけるスギ天然林の林分構造・動態解析	吉田茂二郎
184	屋久島の自然と植生	田川日出夫
185	屋久島の自然保護に関する討論会(写真集S49、6、15)	正宗敏敬、可合功
186	屋久島の植生調査報告(荒川流域を中心として)	今永正明、吉田茂二郎、湯之上修
187	屋久島の森林施業に関する研究(I. スギ人工林の生育立地解析)	
188	屋久島の森林施業に関する研究(II. 航空写真によるスギ人工林の林分構造評価)	今永正明、永田幸司
189	屋久島の森林利用と自然保護、レクリエーション	宮林茂幸
190	屋久島のスギ天然林分の林分構造について	吉田茂二郎、辻本克己(鹿大農)
191	屋久島のスギ天然林(1)林庄型と立地環境	小林繁男、加藤正樹、森貞和仁、高橋正道
192	屋久島のスギ天然林(2)林分構造と更新過程	小林繁男、加藤正樹、森貞和仁、高橋正道
193	屋久島の鳥類とその生態	小笠原、小林恒明
194	屋久島の民具	上屋久町教育委員会 鹿大法学部
195	屋久島の野生鳥獣相及び屋久犬	白井邦彦
196	屋久島の林野土壌の性質・原因及び分布に関する研究(I)	矢木久義、森田桂行、山家富美子、河室公康、久保哲茂
197	屋久島の林野土壌の性質・原因及び分布に関する研究(II)	山家富美子
198	屋久島の林野土壌の性質・原因及び分布に関する研究(III)	山家富美子、久保哲茂
199	屋久島の林野土壌の性質・原因及び分布に関する研究(IV)	山家富美子、久保哲茂
200	屋久島の林野土壌の性質・原因及び分布に関する研究(V)	三浦覚、矢木久義、久保哲茂
201	屋久島花之江河湿原周辺における森林の変遷について	竹岡政治、鳥居厚志
202	屋久島東事業区森林調査簿施業基案(昭和6年第1次検訂)	
203	屋久島東事業区収穫基案(昭和18年度～27年度)	
204	屋久島フォーラム94 in TOKYO 記念誌	
205	屋久島北事業区基本図(38～40林班)	
206	屋久島北事業区収穫基案(自:昭和18年度 至:27年度)	
207	屋久島北事業区施業基案	
208	屋久島南事業区森林調査簿(昭和16年度第二次検訂)	
209	ヤクスギの天然更新について	
210	屋久杉の組織と材質に関する研究(1. 屋久島と屋久杉の成立)	藤田晋輔
211	やくすぎ銘木採材について	
212	屋久杉ランドにおける森林レクリエーション(1) 利用者の意向	馬場裕典、吉良今朝芳、松下幸司
213	野生動物保護に必要な観光客に対する指導と道路管理	揚妻直樹
214	ヤマモモの豊凶年によるサル的菜食行動の変化	揚妻直樹 デビット、A. ヒル
215	わが町の郷土教育資料(上屋久町の歴史編)	上屋久町教育委員会

(2) 保全センター保有資料

番号	資料名	指導者(機関)名等
1	モニタリング調査(入り込み調査)データ	鹿児島大学森林政策学研究室 枚田邦宏教授
2	生態系モニタリングプロットデータ	林野庁森林総合研究所
3	雨量データ	

3 保全センター所有データの提供状況

提供先	データ名・提供データの内容等
高知大学人文学部	雨量データ
屋久島測候所	〃
鹿児島県熊毛支庁屋久島 土木出張所	〃
上屋久町役場	〃
屋久島電工	〃
屋久島環境文化村センター	写真パネル(No.1~No.40) 屋久島環境文化村センター交流ホールにおける展示
屋久杉自然館	空中写真

4 学術調査等の入林者リスト

(平成7年3月1日~平成9年3月31日)

平成7年度

目的	代表者	所属	地域	期間	備考
植生調査	相場慎一郎	北海道大学大学院地球 環境科学研究科	16, 24林班 〃 272林班外	6/20~7/30 9/20~9/26 7/12~7/30	
ヤクザル及び植物調査	大谷達也	名古屋大学大学院農学 研究科	3~4林班	7/1~8/30 10/16~ 8, 1/30	
屋久島固有植物調査	井上建	信州大学理学部生物学 科	28, 30, 31林班	7/26~7/31	環境庁委託 調査
植生調査	朱宮丈晴	千葉大学生態学研究室	2林班	7/3 ~7/30	
調査研究「屋久島低地部 攪乱立地に見られる先駆 性樹種の成長特性」	三好弘子	千葉大学理学部生物学 科	70林班	7/15~7/30	
ヤクザル垂直分布調査	大竹勝	日本モンキーセンター 栗栖研究所	瀬切川, 大川の 中・上流域	7/21~8/12	
ヤクザルの生態調査	杉浦秀樹	東京大学理学部人類学 教室	安房林道周辺	7/28~8/5	

平成7年度

目的	代表者	所属	地域	期間	備考
ヤクザル垂直分布調査 ヤクタネゴヨウの現存木	久保田裕之 齋藤明	京都市 九州大学農学部	47, 48林班	8/26~8/31 9/4~9/8	林木育種センタ
調査				11/1~ 8.3/31	-との共同研究
屋久島産蘇苔類の分布調査 (変形菌出現調査)	小原比呂志	有限会社 屋久島野外 活動総合センター	212~215林班	10/15~ 8, 10/14	
ヤクスギ林大気中の香り 物質の採集	鈴木一重	社団法人 人間生活工 学研究センター	68, 80, 85林班	10/23 ~10/26	
菌類調査	勝本謙	山口市	ヤクスギラント線, 白谷林道, 一湊 林道沿線	10/25 ~10/28	環境庁委託 調査(植物版 RDB作成のため)
野生ニホンザルの社会生 態学的研究	田中俊明	日本大学大学院文学研 究科心理学専攻	1~4林班	11/2 ~8, 5/1	
サル及びシカの生態調査	SANDEEP VADHER	永田	257, 258林班	8, 2/2 ~3/31	

平成8年度

目的	代表者	所属	地域	期間	備考
植生調査「常緑広葉樹種 の材比重の測定」	相場慎一郎 (甲山隆司)	北海道大学大学院地球 環境科学研究科	14, 16, 24, 35, 7 6, 257, 258林班	4/3~4/17	
植生調査			14, 35, 76, 2572 58林班	7/1~8/10	
野生ニホンザル社会の生 態学的研究	松原幹	犬山市	1~4林班	5/2~11/1	
ヤマメ等生息調査	森部清司	またたび溪流倶楽部	鯛ノ川, 安房川 小杉谷, 白谷雲 水峡周辺	4/26~5/1	
ヤクザルの追跡調査, 植 物調査	大谷達也	名古屋大学大学院農学 研究科	3~4林班	5/13 ~10/30	
土壌生成分類学的基礎調 査	田村憲司	筑波大学応用生物化学 系	屋久町, 上屋久 町全域	7/19~7/23	
地質調査「屋久島花崗岩 の形成と貫入過程」	西本昌司	名古屋市科学館	屋久町, 上屋久 町全域	7/1~11/31	
ヤクタネゴヨウの現存木 調査	齋藤明	九州大学農学部	47, 48林班	9/1 ~9, 3/31	
動植物の学術研究	DAVID HILL	サセックス大学	一湊林道, 永田 歩道, カンカケ 岳一円	7/31~8/10 9/19 ~9, 2/17	
ヤクシカ及び鳥類に関す る調査	鶴田兼一	熊毛支庁屋久島事務所	1, 2林班	10/10 ~9, 3/31	
学術調査「照葉樹林の 構成種の形態測定」	石井励一郎	京都大学生態学研究セ ンター	16~21, 24林班	11/1~11/5	
野生ニホンザルの社会, 生態学的研究	早川祥子	愛知県	1~4林班	11/2 ~9, 5/1	
ニホンザルのスギ林の利 用に関する研究	船越美穂	京都大学	9~15, 74~86 林班	11/1 ~12/31	
「酸性雨」雪及び樹氷の 採取	古賀実	産業医科大学共同利用 研究センター	217~221林班	9, 1/20 ~2/28	科学技術庁 振興事業団 助成
植生調査	大沢雅彦	千葉大学理学部生物学 科	2, 4, 204林班	9, 3/6 ~3/18	

5 報告書リスト

(平成7年3月1日～平成10年1月31日)

報告書名	報告者氏名(機関)
屋久島の林木群集構造と基質表層の安定性 (照葉樹林域における基質表層の回転と森林の更新動態 昭和63年～平成2年度科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書:63-74(1991.3))	甲山隆司
東南アジアの多雨林の構造特性と再生動態 (日本を含む東アジアおよび太平洋地域における熱帯並びに亜熱帯現存植生の成立要因の地域間比較に関する予備的研究 昭和63年度鹿児島大学教育研究学内特別経費成果報告書 中野和敬編:30-38(1990))	甲山隆司
照葉樹林と硬葉樹林 (週刊朝日百科・「植物の世界」59:13-140-13-143)	甲山隆司
Significance of architecture and allometry in saplings (<i>Functional Ecology</i> 1987:399-404)	甲山隆司
A Function Describing All-Sized Trunk Diameter Distribution in Warm-Temperate Rain Forests (<i>Bot. Mag. Tokyo</i> 101:207-212(1988))	甲山隆司
Simulation of the Structural Development of Warm-Temperate Rain Forest Stands (<i>Annals of Botany</i> 63:625-634(1989))	甲山隆司
Simulation Stationary Size Distribution of Trees in Rain Forests (<i>Annals of Botany</i> 68:173-180(1991))	甲山隆司
Tree Size Structure of Stands and Each Species in Primary Warm-Temperate Rain Forests of Southern Japan (<i>Bot. Mag. Tokyo</i> 99:267-279(1986))	甲山隆司
Density-size Dynamics of Trees Simulated by a One-sided Competition Multi-species Model of Rain Forest Stands (<i>Annals of Botany</i> 70:451-460(1992))	甲山隆司
Size-Structured tree populations in gap-dynamic forest - the forest architecture hypothesis for the stable coexistence of species (<i>Journal of Ecology</i> 1993 81:131-143)	甲山隆司
Stand Dynamics in a Primary Warm-Temperate Rain Forest Analyzed by the Diffusion Equation (<i>Bot. Mag. Tokyo</i> 100:305-317(1987))	甲山隆司
Size-structured multi-species model of rain forest trees (<i>Functional Ecology</i> 1992 6:206-212)	甲山隆司
Frequency Distribution of Tree Growth Rate in Natural Forest Stands (<i>Annals of Botany</i> 64:47-57(1989))	甲山隆司, T. Hara
Dynamics of Primary and Secondary Warm-temperate Rain Forests in Yakushima Island (<i>TROPICS Vol.6(4)</i> :383-392(1997))	甲山隆司, 相場慎一郎
Below-and above-ground allometries of shade-tolerant seedlings in a Japanese warm-temperate rain forest (<i>Functional Ecology</i> 1994 8:229-236)	甲山隆司, P. J. GRUBB
Tree species stratification in relation to allometry and demography in a warm-temperate rain forest (<i>Journal of Ecology</i> 1996 84:207-218)	相場慎一郎, 甲山隆司
The effects of a typhoon on Japanese warm temperate rainforests (<i>Ecological Research</i> 1996 11:229-247)	P. J. BELLINGHAM, 甲山隆司 相場慎一郎
熱帯山地の生態学 (生態環境研究(ECO-HABITAT), 2(1):77-79(1995))	大沢雅彦
湿潤アジアの垂直分布帯と山地植生テンプレート (現代生態学とその周辺. 沼田真編. 東海大学出版会.(1995))	大沢雅彦
Latitudinal comparison of altitudinal changes in forest structure, leaf-type, and species richness in humid monsoon Asia (<i>Vegetatio</i> 121:3-10(1995))	大沢雅彦

報 告 書 名	報告者氏名 (機関)
Patterning of Subtropical/Warm-temperate Evergreen Broad-leaved Forests in East Asian Mountains with Special Reference to Shoot Phenology (TROPICS Vol. 6(4) : 317-334 (1997))	大沢雅彦, 新田郁子
Leaf dynamics and shoot phenology of eleven warm-temperate evergreen broad-leaved trees near their northern limit in central Japan (Plant Ecology 130 : 71-88 (1997))	新田郁子, 大沢雅彦
Vertical vegetation zones along 30° N latitude in humid East Asia (Vegetatio 126 : 135-149 (1996))	Jing-Yun Fang, 大沢雅彦 吉良龍夫
Zonal transition of evergreen, deciduous, and coniferous forests along the altitudinal gradient on a humid subtropical mountain, Mt. Emei, Sichuan, China (Plant Ecology 133 : 63-78 (1997))	Cindy Q. Tang, 大沢雅彦
草の液果の種子散布 (フェノロジー研究No. 24 : 7-9 (1995))	野間直彦
Rapid Shifting of Foraging Pattern by Yakushima Macaques (<i>Macaca fuscata yakui</i>) in Response to Heavy Fruiting of <i>Myrica rubra</i> (International Journal of Primatology 16 : 247-260 (1995))	揚妻直樹, 野間直彦
種子散布にみる植物との共生 (山岸哲編「鳥類生態学入門」128-142 築地書館 (1997))	野間直彦
Annual Fluctuations of Sapfruits Production and Synchronization within and inter Species in a Warm Temperate Forest on Yakushima Island (Tropics Vol. 6(4) : 441-449 (1997))	野間直彦
Fruiting phenology of animal-dispersed plants in response to winter migration of frugivores in a warm temperate forest on Yakushima Island, Japan (Ecological Research 12 : 119-129 (1997))	野間直彦, 湯本貴和
種子散布をめぐる植物と鳥類・哺乳類の共生関係 -屋久島での研究から- (霊長類研究 Primate Res. 13 : 137-147 (1997))	野間直彦
屋久島での野生のサルへの餌やり (季刊「生命の島」. 35)	杉浦秀樹
屋久島の「自然な」サルと「不自然な」サル (「なきごえ」1996.8)	杉浦秀樹
屋久島, 西部林道における野生ニホンザルの餌付き方の調査 -1993年と1995年の比較 (霊長類研究 Primate Res. 13 : 41-51 (1997))	杉浦秀樹, 揚妻直樹, 田中俊明 大谷達也, 松原 幹, 小林直子
屋久島の照葉樹林におけるヤクシマザル (<i>Macaca fuscata yakui</i>) による種子の捕食と散布 (1997.3)	大谷達也
屋久島の世界遺産地域を通過する西部林道が自然環境に与える影響 (霊長類研究 Primate Res. 10 : 41-47 (1994))	揚妻直樹, 杉浦秀樹, 田中俊明
屋久島西部林道沿いモニタリングプロットに於けるオオバヤドリギ分布について	樹木医 宇佐美暁一
土壌断面調査票 (屋久島に分布する土壌の土壌生成分類学的基礎調査平成8・9年度調査分)	田村憲司
屋久島原生自然環境保全地域調査報告書	環境庁自然保護局 財団法人日本自然保護協会
・屋久島原生自然環境保全地域におけるスギ林の10年間の群落動態	武生雅明, 大沢雅彦, 尾崎煙雄 大塚泰弘, 吉田直哉, 本間航介 小野昌樹, 江草清和
・屋久島原生自然環境保全地域の常緑針広混交林の10年間の変化	木村勝彦
・屋久島原生照葉樹林における林木群集の10年間の動態	相場慎一郎, 明石信廣, 甲山隆司
・屋久島西部照葉樹林域の原生林と二次林の10年間の動態	甲山隆司, 相場慎一郎, 明石信廣 坂本圭児

報 告 書 名	報告者氏名 (機関)
屋久島原生自然環境保全地域調査報告書	環境庁自然保護局 財団法人日本自然保護協会
・屋久島原生自然環境保全地域の山地針葉樹林における林木群集の構造	明石信廣, 相場慎一郎, 甲山隆司
・屋久島低地におけるリーフサイズが異なる2つの常緑広葉樹林の比較	大沢雅彦, 武生雅明, 大塚俊之
・屋久島亜熱帯・暖温帯常緑広葉樹林域の放棄地における二次遷移	大塚俊之, 大沢雅彦, 武生雅明
・屋久島における維管束着生植物の垂直分布と環境要因に関する予報	江草清和, 大沢雅彦
・原生的照葉樹林群集の果実のフェノロジー	野間直彦
・屋久島の照葉樹林帯とヤクスギ林帯を構成する植物に放花するハナバチ相	湯本貴和
・屋久島原生自然環境保全地域の土壌と針葉樹3種の分布	小野昌輝, 大沢雅彦
・屋久島のスギ林内埋没土壌の花粉分析と鬼界カルデラの火砕流噴火の影響	木村勝彦, 鈴木茂
北限における常緑広葉樹林の植生・環境分化に関する研究 平成5～6年度科学研究費補助金 一般研究 (B) 研究成果報告書	研究代表者 大沢雅彦
・ Latitudinal comparison of altitudinal changes in forest structure, leaf type, and species richness in humid monsoon Asia	大沢雅彦
・ The montane cloud forest and its gradational changes in southeast Asia	大沢雅彦
・屋久島低地におけるリーフサイズが異なる2つの常緑広葉樹林の比較	大沢雅彦, 武生雅明, 大塚俊之
・屋久島の常緑広葉樹林における地形的群落の構造	朱宮丈晴, 大沢雅彦
・屋久島低地におけるリーフサイズが異なる常緑広葉樹の葉の寿命	新田郁子, 大沢雅彦, 大塚俊之
・リーフサイズが異なる常緑広葉樹の葉の寿命	三好弘子 鈴木由香理
・常緑広葉樹の開葉と落葉に着目した季節的パターン	新田郁子
・常緑広葉樹の葉の水分特性の季節変化	鈴木由香理
・屋久島亜熱帯・暖温帯常緑広葉樹林域の放棄地における二次遷移	大塚俊之, 大沢雅彦, 武生雅明
・屋久島低地部の攪乱立地に出現する先駆性樹種の特性	三好弘子, 大塚俊之, 大沢雅彦 新田郁子
屋久島における気候変動と森林系のレスポンス 平成7年度科学研究費補助金 総合研究 (A) 研究成果報告書	研究代表者 大沢雅彦 (千葉大学理学部教授)
・花崗岩節理系と表層地形動態	山本啓司
・地形に対応した常緑広葉樹林の構造と土壌特性のパターン	朱宮丈晴, 大沢雅彦
・屋久島における台風の気候学的解析	松本淳, 岡谷隆基, 江口卓
・ The effects of a typhoon on Japanese warm temperate rain forests	Bellingham, P. J., 甲山隆司
・林冠アクセスシステムの建設	相場慎一郎 寺島一郎
・林冠アクセスシステムを利用した樹冠の形成・維持機構の研究 ーその事始めー	寺島一郎, 木村恭子

報 告 書 名	報告者氏名 (機関)
屋久島における気候変動と森林系のレスポンス 平成7年度科学研究費補助金 総合研究(A) 研究成果報告書 ・照葉樹林構成種8種のシュートの形態の変異とその機能的意義 ー伸長志向のシュートと葉面展開志向のシュートー ・屋久島の常緑広葉樹におけるリーフサイズと葉の寿命の変化	研究代表者 大沢雅彦 (千葉大学理学部教授) 竹中明夫 大沢雅彦, 新田郁子
・森林群集の繁殖過程と更新動態 ー屋久島の照葉樹林の鳥散布樹種の果実数の年変動と同調性ー ・屋久島低地部の常緑広葉樹林地域における二次遷移	新山馨, 野間直彦, 小南陽亮 佐藤保, 斉藤哲 大塚俊之, 三好弘子, 大沢雅彦
・屋久島における推移行列モデルの応用	高田壯則
葉の特性に着目した常緑広葉樹の機能型と群落分化 平成7~8年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)研究成果報告書 ・常緑広葉樹の芽の類型と生態学的属性 (Bud structure and ecological traits of evergreen broad-leaved trees at their northern limit in southern and central Japan.) ・Leaf dynamics and shoot phenology of eleven warm-temperate evergreen broad-leaved trees near their northern limit in central Japan. ・Patterning of subtropical/warm-temperate evergreen broad-leaved forests in east Asian mountains with special reference to shoot phenology. ・Distribution ranges and population structure of evergreen broad-leaved trees along altitudinal gradient on Mount Emei, Shichuan, China. ・地形に対応した常緑広葉樹林の階層構造とその形成過程 (Structural and developmental process of stratification of evergreen broad-leaved forest along topographical gradients in Yakushima, southern Japan.) ・亜熱帯・暖温帯常緑広葉樹林地域の放棄耕作地における初期二次遷移の地理的比較 (Latitudinal comparison of old-field successional pattern in subtropical/warm-temperate evergreen broad-leaved forest region.)	研究代表者 大沢雅彦 (千葉大学理学部教授) 大沢雅彦, 新田郁子 新田郁子, 大沢雅彦 大沢雅彦, 新田郁子 Cindy Q. Tang & 大沢雅彦 朱宮丈晴, 大沢雅彦 大塚俊之
ヤクシマザル垂直分布調査報告 (一九九三~一九九七年)	ヤクザル調査隊 代表者 好廣眞一
無葉緑植物タカツランの棲息場所と棲息状況 (植物分類, 地理 45(2): 131-138 (1994))	馬田英隆, 金谷整一, 森 健
屋久島破沙岳周辺におけるヤクタネゴヨウの分布様式 (日本林学会誌 別冊 79巻 3号: 160-163 (1997))	金谷整一, 玉泉幸一郎, 伊藤 哲 齋藤明
第41回日本生態学会大会自由式シンポジウム 溪畔域の生態的構造と機能ー森林と河川の相互作用ー (森林科学 第13号: 60-67 (1995.2))	伊藤 哲
山地溪畔域の地表変動と攪乱体制 (河川・流域の森林動態) (日本生態学会誌 (Japanese Journal of Ecology) 45: 323-327 (1995))	伊藤 哲
地理的限界付近に生育するスギの遺伝子構成 (CAN. J. FOR. RES. VOL. 23: 859-863 (1993))	津村義彦, 大庭喜八郎
スギ天然林における遺伝子変異と分布集団間の分化 (Plant Species Biol. 9: 191-199 (1994))	戸丸信弘, 津村義彦 大庭喜八郎
屋久島の天然スギ林帯の樹齢構成と更新機構 (The Botanical Magazine Tokyo 100: 223-241 (1987))	鈴木英治, 塚原 淳
屋久島生態系モニタリング調査報告書 (平成9年3月)	熊本営林局

報 告 書 名	報告者氏名 (機関)
屋久島原生自然環境保全地域調査報告書 (1984年3月)	環境庁自然保護局
・屋久島の気候－特に降水量分布の地域性について－	江口 卓
・屋久島小楊子川流域の地質	若松 暉, 小川内 良人
・小楊子川流域の地形	磯 望
・屋久島における過去6300年間の地形の安定性の変化	相馬秀広
・屋久島原生自然環境保全地域における土壌の居留時間と屋久スギ	下川悦郎, 地頭菌 隆
・屋久島原生自然環境保全地域のシダ植物相と顕花植物相	光田重幸, 永益英敏
・屋久島の淡水産珪藻類と鼓藻類	平野 實, 光田重幸
・屋久島原生自然環境保全地域の蘚苔類	土永浩史
・屋久島原生自然環境保全地域の植生構造と動態	大沢雅彦
・屋久島西部における植生の垂直分布帯の構造	入倉清次
・小楊子川流域の照葉樹原生林における林木群集の構造	甲山隆司, 坂本圭児, 小林達明 渡辺隆一
・屋久島原生自然環境保全地域の常緑針広混交林の構造と更新過程	木村勝彦, 依田恭二
・屋久島原生自然環境保全地域におけるスギ林の構造と維持・再生機構	岡田 淳, 大沢雅彦
・スギ天然林における種組成の高度による変化と再生産構造	田川日出夫, 鈴木英二, 富士篤也 藤井宏治, 大平 裕, 薄田二郎 塩谷克典
・屋久島原生自然環境保全地域とその周辺地域におけるシカの分布	朝日 稔, 和泉 剛, 永井正身 平林孝夫, 沼口憲治, 大塚閨一 東 滋, 大竹 勝, 山極寿一 足沢貞成, 赤座久明, 宮川猛史 藤田 剛, 岩川 正, 大井 徹 花輪伸一
・屋久島原生自然環境保全地域のヤクザルの生態	
・屋久島原生自然環境保全地域における鳥類	
・屋久島に産する甲虫類について	中根猛彦
・屋久島のスズメバチ相	山根正気
・屋久島のアリの垂直分布を中心に－	寺山 守, 山根正気
・屋久島の虫えい形成昆虫相, とくに, タマバエ類(双翅目)による虫えいの分布	湯川淳一
・大隅諸島・屋久島の哺乳類, 爬虫類及び両生類相について	森田忠義
・屋久島原生自然環境保全地域で得られた若干の無脊椎動物	山根正気, 富山清升, 松井英司
平成8年度 屋久島における島嶼生態系の保全に関する調査研究報告書 (平成9年3月)	財団法人 自然環境研究センター
・屋久島における気象観測－1996年の気象観測とその問題点について－	江口 卓, 松本 淳

報 告 書 名	報告者氏名 (機関)
平成8年度 屋久島における島嶼生態系の保全に関する調査研究報告書 (平成9年3月)	財団法人 自然環境研究センター
・屋久島の気候の広域的位置付け	松本 淳
・屋久島花崗岩多雨地域における降雨・流出特性	地頭菌 隆, 下川悦郎
・衛星データ等による屋久島の森林生態系分布の環境傾度分析 -屋久島天然杉林の分布範囲の更新-	沢田治雄, 中園悦子
・森林解析へのパターン展開法の応用(2) 屋久島天然杉林の分布範囲の更新 (研究成果発表論文)	中園悦子, 沢田治雄
・屋久島における自然攪乱及び人為的攪乱の時系列解析	高田壮則, 柳澤篤寛
・常緑広葉樹林の動的発達構造	相場慎一郎, 甲山隆司
・屋久島におけるヘゴの生態	鈴木英治, 永野 徹
・照葉樹林の液果樹種における結実数と成長の関係	野間直彦, 新山 馨
・Annual Fluctuations of Sapfruits Production and Synchronization within and inter Species in a Warm Temperate Forest on Yakushima Island (研究成果発表論文)	野間直彦
・照葉樹林構成樹種の樹冠形成プロセスの解析	竹中明夫
・Structural variation in current-year shoots of broad-leaved evergreen tree saplings under forest canopies in warm temperate Japan (研究成果発表論文)	竹中明夫
・屋久島における希少種の生育環境としての低地常緑広葉樹林の重要性	岩川文寛
・屋久島の常緑広葉樹の葉、芽、シュート、樹型特性と森林構造との関 係に関する研究	大沢雅彦, 新田郁子
・亜熱帯・暖温帯常緑広葉樹林地域の放棄耕作地における初期二次遷移 の比較	大塚俊之, 大沢雅彦
・屋久島島民の生活領域と自然地域の接点における土地利用と植生の関 連について	日下田紀三
・生態系保全に関する自生植物の活用	大山勇作
・国立公園屋久島の系譜(その1)	佐山 浩
・ツーリストと自然環境保全	宮川 浩
「森林衰退に係わる大気汚染物質の計測, 動態, 制御に関する研究」 (科学技術振興事業団戦略的基礎研究プロジェクト 平成8年度研究成 果報告書 平成9年6月)	研究代表者 佐久川 弘
・九州山岳地帯における大気汚染物質の挙動および森林衰退に与える影 響に関する研究	永淵 修, 古賀 実, 馬場謙三
・室満山におけるモミ林の衰退と更新	根平邦人, 真鍋 徹, 和田秀次
・広島県における酸性雨や重金属汚染と森林衰退に関する大気環境学的 研究	福岡義隆
・広島における林内・林外・宅地の酸性雨調査について	福岡義隆, 阪井雅洋, 田中淳一
・広島県における降水中微量元素のモニタリング	竹田一彦, 丸本幸治, 藤原祺多夫
・極楽寺山および西条盆地における大気汚染物質の計測	佐久川 弘, 智和正明, 平川 剛

報 告 書 名	報告者氏名 (機関)
「森林衰退に係わる大気汚染物質の計測，動態，制御に関する研究」 (科学技術振興事業団戦略的基礎研究プロジェクト 平成8年度研究成果報告書 平成9年6月)	研究代表者 佐久川 弘
・二種のマメ科植物の成長と栄養塩獲得に対する酸性雨の影響	堀越孝雄，里村多香美
・松枯れ被害とアカマツの発生する気体成分の関連について	桜井直樹，中川直樹，坪井直子
・閉鎖地形におけるアカマツ林の帯状枯死に関する気候生態学的研究	土谷彰男
・極楽寺山南北斜面におけるアカマツ若木葉上の酸性降下物質量の比較	苗村晶彦，中根周歩，川口優子
・マツノマダラカミキリによるクロマツ苗木摂食影響の評価	中根周歩，戒 晃司
・極楽寺山における大気汚染によるヒサカキ葉への影響評価	川口優子，苗村晶彦，中根周歩
・大気汚染物質と酸性雨・霧の形成過程に関する研究	久米 篤 石坂 隆，皆巳幸也，渡辺幸一
・樹木の生理作用に及ぼす大気汚染物質の影響	松本 潔， 手塚修文，竹中千里，石坂 隆
・乗鞍岳における大気環境と森林の状況	水野暁子，西村弥亜， 竹中千里
・酸性降下物による土壌の劣化の指標となる有機分子，及びパラメータの特定	西村弥亜
・酸性霧の植物細胞膜への影響と，植物の適応	水野暁子，手塚修文
・丹沢大山における酸性降下物の負荷と森林への影響	井川 学，大河内 博

V 保全センターに関する主な行事

月 日	項 目	場 所	主 催 者	参 加 者
4. 13 (土)	環境庁・世界遺産センター開所式	世界遺産センター	環境庁	調整官, 所長 大寺
4. 17 (水)	屋久島山岳山開き	ヤクスギランド		調整官, 所長 百田
4. 18 (木)	屋久島山岳部利用対策協議会		屋久島山岳部利用対策協議会	調整官, 所長 大寺
4. 22 (月)	請負事業体安全会議			所長, 下池, 河本
5. 2 (木)	白谷雲水峡さつき吊橋落成式	白谷雲水峡		調整官, 所長 百田
5. 13 (月)	屋久島の森シンポジウム実行委員会	屋久島離島開発総合センター	保全センター	所長, 大寺
5. 14 (火)	県建設業協会屋久島支部通常総会			調整官, 所長
5. 25 (土)	上屋久町小学5年生森林教室	白谷雲水峡	上屋久町教育委員会	調整官, 所長 外4名
5. 27 (月)	荒川地区保護管理協議会総会	屋久町総合センター	荒川地区保護管理協議会	調整官, 所長 大寺
6. 7 (金)	屋久島林業開発公社総会			調整官, 所長
6. 14 (金)	白谷地区保護管理協議会総会	シサイト [®] ホテル屋久島	白谷地区保護管理協議会	調整官, 所長 百田
7. 9 (火)	屋久島山岳部利用対策協議会	屋久島離島開発総合センター	屋久島山岳部利用対策協議会	調整官, 所長 大寺
7. 19 (金)	屋久島環境文化村センター開所式	屋久島環境文化村センター	屋久島環境文化財団	調整官, 所長
8. 9 (金)	白谷雲水峡クリーン作戦	白谷雲水峡		大寺, 下崎 百田, 下村
9. 2 (月)	衛星画像地図勉強会	保全センター	保全センター	調整官, 所長 外7名
10. 16 (木)	水環境保全市町村全国大会及びシンポジウム			所長, 大寺
10. 22 (火) ～23 (水)	鹿児島大学国際シンポジウム	小杉谷		調整官, 所長
10. 30 (水)	屋久島山岳部利用対策協議会	屋久島環境文化村センター	屋久島山岳部利用対策協議会	所長, 大寺
11. 8 (金)	鹿児島県国有林野等所在地市町村有志協会	鹿児島市		調整官
11. 9 (土)	環境学習セミナー	太忠岳	屋久島環境文化財団	調整官, 百田
11. 17 (日)	上屋久町特産品祭		上屋久町	下崎, 下村, 河本
11. 27 (水) ～28 (木)	森林の流域管理システム推進発表大会	熊本営林局	熊本営林局	下崎, 下村
1. 7 (火)	国立公園管理計画検討会			調整官
1. 25 (土)	上屋久町・屋久町環境審議会		上屋久町 屋久町	調整官
2. 25 (火)	調査研究推進会議	世界遺産センター		調整官, 大寺
3. 3 (月)	漁民の森植樹祭	白川国有林内	上屋久町	調整官, 所長
3. 25 (火)	環境学習会議	屋久島環境文化村センター		調整官, 所長

VI 新聞報道（屋久島関連記事）

年月日	マスコミ紙	報道の概要
8. 4. 14	朝日新聞	縄文杉「隔離」 展望台が完成 樹齢数千年と言われる鹿児島県屋久島のシンボル縄文杉を、心ない登山客から守ろうと、屋久島営林署が建設していた展望台が出来上がった。
8. 4. 14	南日本新聞	自然研究の殿堂に 屋久島遺産センター開所 世界遺産に登録されている屋久島で、環境庁が建設した屋久島世界遺産センターの開所記念式が十三日午後二時半、岩垂寿喜男環境庁長官ら関係者約七十人が出席し、熊毛郡屋久町安房であった。
8. 4. 14	西日本新聞	世界遺産センター屋久島にオープン 研究、情報提供の拠点に 世界遺産に指定された鹿児島県・屋久島で環境庁が建設を進めてきた「屋久島世界遺産センター」（熊毛郡屋久町安房前岳）が十三日、オープン、岩垂寿喜男環境庁長官が出席して開所記念式典が行われた。
8. 4. 16	朝日新聞	屋久島の県道拡幅改修計画 環境庁長官「観光道路は認めない」 県が県道の拡幅工事を計画している問題で、岩垂寿喜男環境庁長官は十四日、「世界に誇れる道路にしたいが、観光道路の必要ない」と述べた。大型バスも通行できる観光道路のような事業申請が県から出されても認めない意向を示した。
8. 4. 16	南日本新聞	世界遺産らしい改修を 屋久島で岩垂長官 西部林道で県に注文 岩垂寿喜男環境庁長官は十四日、通称・西部林道（県道）の改修問題について「世界遺産にふさわしい道路を考えて欲しい」と、県の環境アセスメントに注文をつけた。
8. 4. 16	南日本新聞	林道の拡幅計画見直して 保護運動家が直訴 西部林道（県道）を視察していた岩垂長官に、同道路の拡幅計画の見直しを求めている地元住民団体の一人が「同地域は屋久島の自然と森の豊かさを代表している。自然変革を伴う道路計画の見直しに力添えを」と、要望書を手渡し直訴した。
8. 4. 16	毎日新聞	岩垂寿喜男環境庁長官は十四日、屋久島の西部を走る通称「西部林道」（県道）拡幅改修計画に関し、「観光道路としての必要性はない」と語り、拡幅を最小限に抑え、環境保全に万全を尽くすべきだとの見方を示した。
8. 4. 16	南日本新聞	第2屋久島丸を再び客船に 上屋久町観光協会 上屋久町観光協会（寺田安久会長）は十五日、九州海運局鹿児島支局長と、屋久島航路で定期便を運航している鹿児島市内の海運会社二社に対し、「第2屋久島丸を屋久島航路で再び客船として運航してほしい」と要望する陳情書を提出した。
8. 4. 19	産経新聞	アピール 屋久島の自然と日本人の倫理観 鹿児島県屋久島の観光客が増え、縄文杉をはじめとする屋久杉への悪影響が懸念されているという。自然遺産に登録されてからというもの、「世界自然遺産指定、縄文杉の屋久島への旅」などの旅行広告が目立つようになった。
8. 4. 23	南日本新聞	貴重群落152件が「壊滅」植物レッドデータブック 屋久島「湿原植生」も危機 最も保護を急ぐ「緊急に対策必要」にランキングされた群落は三百十件あり、世界自然遺産に登録されている屋久島の「湿原植生」も含まれた。
8. 4. 24	朝日新聞	上陸・産卵数が大幅減 屋久島のウミガメ 環境悪化が原因 屋久島に上陸し、産卵したウミガメの数が大幅に減少していることが、鹿児島市内で二十三日開かれた県ウミガメ保護対策連絡協議会で報告された。砂浜が減る一方で、踏み荒らす見物人が増えているといい、環境の悪化が原因と見られる。
8. 4. 24	朝日新聞	前回と同じ2氏一騎打ち 上屋久町町長選公示 熊毛郡上屋久町長選は二十三日公示され、無所属で再選をめざす矢野勝巳氏と、無所属新顔で茶製造販売会社長の柴八代志氏が立候補を届け出た。
8. 4. 29	南日本新聞	任期満了に伴う熊毛群上屋久町長選挙は二十八日、投票が行われ、新人で元町議の柴八代志氏が初当選した。
8. 5. 1	南日本新聞	柴・上屋久町政の課題 西部林道 どう解決 生活環境整備も早急に 自然保護と開発という二反律の問題を、どうバランスさせて住民の生活向上をはかるか―世界遺産を抱える柴新町政は大きな課題を抱えている。
8. 5. 15	朝日新聞	世界遺産センター オープン 豊かな自然のPR・研究に 世界自然遺産に登録された屋久島に環境庁が建設していた屋久島世界遺産センター（屋久町安房）が完成した。

年月日	マスコミ紙	報道の概要
8. 5. 19	朝日新聞	屋久島で違法の野焼き 世界自然遺産に登録された鹿児島県・屋久島の上屋久，屋久両町が，廃棄物処理法に違反するごみの野焼きを業者らに委託していることが分かった。
8. 5. 21	南日本新聞	屋久島環境文化村の2施設7月20日開館 館長に田川氏 屋久島環境文化村の中核施設，屋久島環境文化村センター（熊毛郡上屋久町宮之浦）と屋久島環境文化研修センター（同郡屋久町安房）がほぼ完成，七月二十日に開館することが決まった。初代館長には鹿児島県立短大の田川日出夫学長が六月一日付で就任する。
8. 5. 21	南日本新聞	アメリカ・テネシー州チャタヌガ市を中心に，二十九日から三十一日まで開かれる国連大学廃棄物ゼロ（ゼロエミッション）世界会議に，鹿児島県がインターネットを通じて参加，屋久島での廃棄物ゼロをめざす産業活動を紹介する。世界遺産・屋久島を全世界に売り込む。
8. 5. 26	南日本新聞	屋久島の登山ルート整備 遭難防止に赤いテープ 屋久島山岳遭難防止対策協議会（会長・日高十七郎屋久町長）と屋久島署は，連休期間中に名古屋の女性が遭難，無事保護された熊毛郡屋久町のモッコム岳（九四四 ^m ）の中腹・万代杉周辺の整備を，一日がかりで約二 ^{km} の登山ルートに沿って赤いテープをはったり，登山道の下草払いや風倒木の除去をした。
8. 5. 27	熊日新聞	世界遺産条約事務局のユネスコ（国連教育科学文化機関）「世界遺産センター（パリ）」のベルント・フォン・ドロステ所長に条約の今後や現状を聞く。 「屋久島での道路建設には十分過ぎる程の配慮が求められるし，有名な古い木の周りにだけ観光客が集中しないような工夫も大切だ。」
8. 5. 30	熊日新聞	指宿・屋久島・種子島 “緑の三角地帯” に人気 縄文杉をはじめ自然の宝庫である屋久島。砂むし温泉で有名な指宿を起点に，世界自然遺産に登録されているこの島，そして鉄砲伝来の地・種子島を結ぶ鹿児島県のグリーントライアングルが南九州の観光ゾーンとして注目を集めている。
8. 6. 1	南日本新聞	インターネットで鹿児島が提言 屋久島を環境問題解決のモデルに インターネットで開催されている国連大学の廃棄物ゼロ（ゼロミッション）世界会議に最終日の三十一日，鹿児島県が屋久島に焦点を当てて問題提起した。
8. 6. 7	南日本新聞	花わずかでも自然満喫 晴天の下シャクナゲ登山 屋久島シャクナゲ登山が二日あり，約百四十人の登山客が一日登山を楽しんだ。だが，お目当てのシャクナゲの花はチラホラで，さびしい夏山開きになった。
8. 6. 7	朝日新聞	日本の音風景百選 屋久島のせせらぎ・トロッコ音 将来に残したい音を集めた環境庁の「日本の音風景百選」に，県内から出水平野のツルの鳴き声と，屋久島・屋久町を流れる千頭（ちがみ）川のせせらぎとトロッコの音が選ばれた。
8. 6. 8	南日本新聞	屋久猿との知恵比べ 鹿大教授勝った 世界自然遺産の鹿児島県屋久島で農家を苦しめてきたヤクザルによる農作物被害（猿害）が，昨年は大幅に減ったことが上屋久，屋久両町の7日までの調査で分かった。萬田正治・鹿児島大学教授（54）考案の「改良型電気柵」が威力を発揮したもので，新対策を実施する度に猿の“知恵”に屈した20年の闘いようやく終止符が打たれそうだ。
8. 8. 1	南日本新聞	世界に誇る自然と共生しよう 屋久島で2特別展 屋久島（熊毛郡屋久町）で，世界自然遺産を考える二つの特別展がスタートした。環境庁の世界遺産センターは「屋久島の自然」，隣の屋久町立屋久杉自然館では「森と水ー水はめぐる」。夏休みとあって連日，親子連れなどがじっくりと学習する姿が見られる。
8. 8. 15	熊日新聞	自然がいっぱい「世界遺産」 紀元杉や滝…多彩な造形美 平成五年十二月に日本で初めて世界遺産に登録された屋久島。九州最高峰の宮之浦岳をはじめとした険しい山々が連なり，亜熱帯から亜寒帯までの植物の垂直分布が見られる。日本の自然が詰まっている。
8. 8. 19	南日本新聞	屋久島西部林道が流失 台風6号でがけ崩れ 改修か現状維持かで揺れる屋久島の「西部林道」の一部が七月十七日から十八日にかけて屋久島を直撃した台風6号の大雨などで大規模ながけ崩れに遭って流失。熊毛郡上屋久町永田から屋久町栗生瀬切までの約十 ^{km} が全面通行止めになっている。二ヶ月過ぎた現在も，がけ崩れで出現した巨大なV字谷は手つかずのまま。

年月日	マスコミ紙	報道の概要
8. 9. 5	西日本新聞	森林、海…あふれる自然 種子島屋久島 圧巻！屋久杉の森 九州南端から約六十 ^{キロ} の太平洋にコンビを組むように浮かぶ種子島と屋久島。二つの島には、鹿児島県が進める「鹿児島サン・オーシャン・リゾート構想」に組み込まれているが、そこには砂浜と奇岩が織りなす自然の造形、樹齢千年以上の巨大な屋久杉など、まだまだ自然があふれている。
8. 9. 22	南日本新聞	世界遺産汚さないで 屋久の関係団体小杉谷一帯を清掃 世界自然遺産の屋久島の山をきれいに－屋久島パークボランティア（日高順一会長）と屋久町観光協会など関係団体は、同町小杉谷周辺の清掃をした。
8. 9. 29	朝日新聞	ニ科尔さんと屋久島を語ろう 環境文化センターで来月、学習セミナー 屋久島環境文化研修センターは十月十一～十三日の環境学習セミナーに、作家のC・W・ニ科尔さんを招き、屋久島を語る交流会を開く。
8. 10. 1	南日本新聞	上屋久町で土石流 台風21号 住民60人が一時待避 台風21号の影響により、二十九日から三十日にかけて、熊毛郡上屋久、屋久両町などで床下浸水やがけ崩れなどの被害が相次いだ。土石流のあった上屋久町吉田の住民六十人は一時、公民館に待避した。
8. 10. 13	南日本新聞	16日に「水」シンポ 屋久、全国から1000人参加 第十二回全国水環境保全市町村シンポジウム（全国水環境保全市町村連協・屋久町主催、南日本新聞社など後援）が、十六日午前九時から屋久町で開かれる。
8. 10. 15	南日本新聞	19日から屋久島国際シンポ 自然と人との共生探る 十九日から二十五日まで鹿児島大学稲森会館と屋久島で、「世界の常緑湿潤林生態系と人との共生－世界自然遺産屋久島（屋久島）から－」と題して国際シンポジウムが開かれる。
8. 10. 28	南日本新聞	電気自動車エコツアー発車 屋久 世界自然遺産の島・屋久島で、排ガスや騒音の少ない電気自動車を使ったエコ（生態観察）ツアーが始まった。
8. 10. 30	日経新聞	屋久島の廃棄物ゼロに 産・官・学 結束 12月に研究会 世界自然遺産に登録された鹿児島県の屋久島を廃棄物ゼロの島にしようという「ゼロエミッション構想」が動き出す。地元自治体、企業、大学などが十二月に「屋久島小さな地球村研究会（仮称）」を発足させ、具体的な計画作り乗り出す。
8. 11. 26	南日本新聞	自然と共生「世界で一つ」目指せ 上屋久・まちづくりシンポ 「共に語ろう二十一世紀の町づくり」をキャッチフレーズにした広域行政シンポジウム（鹿児島県などが主催）が二十二日夜、熊毛郡上屋久町の屋久島環境文化村センターで開かれた。
8. 11. 26	南日本新聞	化石燃料全廃へ 産官学結束廃棄物もゼロめざす 世界自然遺産に登録された屋久島の廃棄物ゼロをめざす「屋久島小さな地球村研究会」が十二月三日発足する。産・官・学が結束し、全島の自動車を電気自動車に転換し、化石燃料を太陽光発電などクリーンエネルギーに替え、可燃ごみなどの再利用を徹底させて環境に「優しい島」をめざす。
8. 11. 26	南日本新聞	住民側の敗訴確定 屋久島土面川訴訟 最高裁が上告棄却 国へ賠償請求認めず 一九七九（昭和五十四）年九月、台風接近の雨により屋久島の土面川（どめんがわ）で土石流が発生、住家が流されるなど被害を受けたのは上流の国有林を乱伐したのが原因などとして、熊毛郡上屋久町永田、大工日高重喜さん（70）ら住民二十人が、国に総額約一億六千万円の損害賠償を求めた「土面川訴訟」の上告審判決で、最高裁第三小法廷（尾崎行信裁判長）は二十六日、住民側の請求を退けた控訴審判決を支持し、住民側の上告を棄却した。住民側敗訴が確定した。
8. 11. 27	朝日新聞	住民側の上告棄却 屋久島・土石 一九七九年九月の台風で発生した土石流によって家屋流失など被害が出たのは「国による上流の山林伐採が原因だ」として、住民が、国に損害賠償を求めた「土面川土石流訴訟」の上告審判決が二十六日、最高裁第三小法廷であった。尾崎行信裁判長は、「土石流による被害と国有林伐採には因果関係がない」とした福岡高裁宮崎支部の判決を「正当として是認できる」と述べ、住民側の上告を棄却した。
8. 12. 4	南日本新聞	屋久島「小さな地球村研」発足 国連大学も参加 廃棄物ゼロめざし 世界自然遺産登録地・屋久島の廃棄物ゼロをめざす「小さな地球村研究会」が三日、熊毛郡上屋久町で発足、行動計画を発表した。

年月日	マスコミ紙	報道の概要
9. 1. 15	南日本新聞	絶壁モッコム制した！ 屋久島でフリークライミング 鹿兒島大コンビが、年末年始にかけ、壮大な断がい絶壁で知られる屋久島のモッコム岳正面壁（高さ約四百 <small>メートル</small> ）に初めてフリークライミングで挑戦し、見事に頂上を極めた。
9. 2. 28	南日本新聞	上屋久に「漁民の森」 来月3日 国有林借り170人が植樹 森を育て豊かな海を取り戻そうー 世界自然遺産の島・屋久島で「漁民の森」づくりが動き出した。「腐葉土流出→大量のバクテリア→藻場→魚わく海」の自然サイクルを人工的に作り出そう、という計画。
9. 3. 6	南日本新聞	「ヤクサバの森」育て 大漁旗のもと落葉樹を植樹 熊毛郡上屋久町一湊で三日、「漁民の森」植樹祭があり、漁民ら約百五十人が「魚わく海」に願いを込めてモミジやヒメシャラなどの落葉・広葉樹の苗木約六百本植樹した。「ヤクサバの森」と名付けた漁民の森は、一湊川上流、白川集落裏の標高二百 <small>メートル</small> の国有林伐採地五、六五 <small>ヘクタール</small> 。

VII 屋久島森林環境保全センター職員名簿

(平成7年3月1日～平成9年12月31日)

官 職		年 月 日		平成7年	平成8年	平成8年	平成9年	平成9年5月1日～
		平成7年	平成8年	平成8年	平成9年	平成9年5月1日～		
		3月1日	4月1日	12月1日	4月1日	平成9年12月31日		
自然遺産保全調整官		小島 善雄	山下 孝親					
所 長		迫田 秋美		井手 征男				
専 門 官	総合調整	大寺 義宏			山本 満久			
	森林生態系保護	林 友和	下崎 哲也					
	治 山	下池 和彦						
	普及教育及び森林空間利用	百田喜久郎						
庶務主任官		下崎 哲也	下村 治雄					
所 員		日高 誓子						
		牧 伸一						
		河本 正人					福泉 裕介	